

目次

I	沿革	• • • • •	p.5
II	展覧会	• • • • •	p.6
1.	常設展	• • • • •	p.6
(1)	高鍋町美術館のあゆみ 1999~2008	• • • •	p.7
(2)	高鍋町美術館のあゆみ 2009~2019	• • • •	p.9
2.	特別展	• • • • •	p.11
	開館20周年記念企画		
	感覚と時と空間を旅するプログラム 「パラレル・トラベル」	• • •	p.11
3.	企画展	• • • • •	p.14
(1)	第16回高鍋町美術展覧会 (無審査展)	• • • •	p.14
(2)	瀧下白峰・むつ子 心にしみる絵手紙展	• • • •	p.18
(3)	スペインの空を仰いで 岡野耕三・又木啓子展	• • •	p.21
(4)	第21回西都・児湯の子どもたちによる絵画展	• • •	p.25
(5)	第19回高鍋高校美術・書道部展	• • • •	p.36
III	普及活動	• • • • •	p.39
1.	美術講演会	• • • • •	p.39
2.	美術教室	• • • • •	p.39
(1)	ワークショップ (申込型)	• • • •	p.39
(2)	ワークショップ (募集型)	• • • •	p.39
(3)	ワークショップ (自由参加型)	• • • •	p.39
(4)	その他	• • • •	p.39
3.	インターンシップ	• • • • •	p.39
4.	アウトリーチ活動	• • • • •	p.39
5.	寄稿	• • • • •	p.39
IV	施設利用	• • • • •	p.40
1.	展示室	• • • • •	p.40
(1)	常設展月別観覧者	• • • •	p.40
(2)	展覧会観覧者	• • • •	p.41
2.	多目的ホール・実習室	• • • • •	p.43

V 収蔵資料	• • • • •	p.47
1. 作品収蔵状況	• • • • •	p.47
2. 資料の貸出	• • • • •	p.47
VI 学芸員記録 (culture)	• • • • •	p.48
VII 法令	• • • • •	p.60
1. 高鍋町美術館基金の設置、管理及び処分に関する条例	• • • •	p.60
2. 高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例	• • • •	p.61
3. 高鍋町美術館管理運営規則	• • • •	p.67
4. 高鍋町美術館協議会規則	• • • •	p.73
5. 高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会運営要綱	• • • •	p.74
VIII 名簿	• • • • •	p.76
1. 美術館協議会	• • • • •	p.76
2. 職員	• • • • •	p.76

I 沿革

高鍋町美術館（以下「美術館」という。）は、郷土の教育や学術及び文化向上に資するために、県内では唯一、町立の美術館として建設された。計画は、町制施行90周年記念事業として決定されたものである。すなわち、1988（昭和63）年「ふるさと創生事業」において町民に提案された3項目①石井十次先生の顕彰、②国際的視野を持った人材の育成、③高鍋城址舞鶴公園総合整備計画の策定のうち、③の計画のなかに「歴史あふれた文化を学ぶことのできる美術館を中心とした三の丸ゾーン」が位置付けられ、美術館構想が提案されたものである。城堀の内側、藩政時代の上級武士武家屋敷街の西端に建ち、1999（平成11）年に開館した。

平成 3年	「美術館建設検討委員会」が設置される
平成 10年	「高鍋町美術館運営検討委員会」が設置される
	「高鍋町美術館開館準備室」が設置される
平成 11年 4月	「高鍋町美術館基金の設置、管理及び処分に関する条例」が施行される
	「高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例」が施行される
	「高鍋町美術館管理運営規則」が施行される
	「高鍋町美術館協議会規則」が施行される
	「高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会運営要綱」が施行される
	土公武二郎初代館長就任
平成 11年 9月	建物が完成する
平成 11年 11月	美術館開館
平成 13年 4月	石井秀隣館長就任
平成 17年 4月	田中隆吉館長就任
平成 23年 4月	萱嶋稔教育長が館長兼任
平成 24年 4月	安井雄一郎館長就任
平成 26年 4月	萱嶋稔教育長が館長兼任
平成 26年 7月	萱嶋稔館長就任
平成 30年 4月	稻井義人社会教育課長が館長兼任
平成 30年 7月	島埜内遵館長就任
令和 2年 4月	萱嶋稔館長就任

II 展覧会

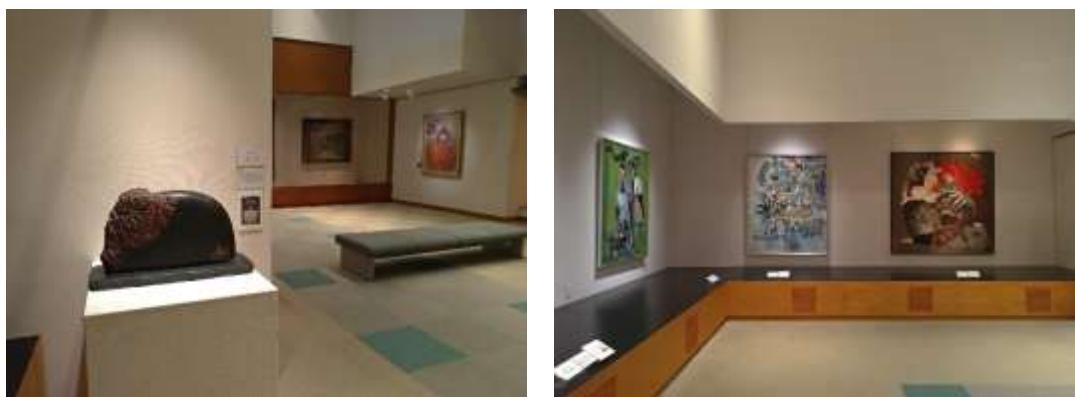
1. 常設展

高鍋町は、江戸時代から教育の藩と言われ、古くから多くの優秀な人材が育成された。長い歴史のなかで、高鍋藩・秋月家のなかでも特に美術に造詣の深い秋月種樹や秋月可山、多くの美術家を育てた有田四郎、平原美夫をはじめ、河野扶、道北昭介など優れた作家を輩出している。また、高鍋町出身で児童福祉の父と呼ばれる石井十次の娘婿は岡山県の画家・児島虎次郎であり、児島もまた幾度となく高鍋町に足を踏み入れている。当館では、こうした郷土作家の系譜コレクションと宮崎ゆかりの作品、また、姉妹都市協定を結んでいる山形県米沢市の名品など、19世紀の後半から現代に至るまでの作品を収蔵している。

常設展では、1年に2回の展示替えを行い、毎回テーマを設けて約800点に及ぶ所蔵品のなかから紹介している。

(1) 高鍋町美術館のあゆみ 1999～2008

高鍋町美術館は高鍋城址のふもと、水を湛える城堀の内側という立地のもとで、「心の発信基地」となるべく1999年11月3日に開館した。展示室入口には、開館以来現在に至るまでに開催された主な企画展を紹介するパネルを設置した。前期は開館10周年までに開催された展覧会の出品作家による収蔵品を展示し、当時の企画展のフライヤーをパネルにしたもの設置することで、当館の沿革を知りながら収蔵品を鑑賞することができる内容とした。



会期

2019年4月2日（火）～9月1日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

大人210円（168円） 小中高生・高齢者・障がい者100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

出品数

20点

観覧者数

3, 506人

常設展「高鍋町美術館のあゆみ1999～2008」

平成31年4月2日(火)～令和元年9月1日(日)

展示順	作品名	作家名	技法
1	高鍋町美術館	鳥原 茂之	水彩画
2	オリオン星座	坂本 正直	油彩画
3	赤と黒	川越 彌録	アクリル画
4	ガードした	大上 敏男	水彩画
5	アイロンがけ	児島 虎次郎	油彩画
6	陽鶴	秋月 種樹	書画
7	日本刀	和泉守 国貞	日本刀
8	日本刀	国次	日本刀
9	白銀波状文扁壺 解読自由の象形文字	森野 泰明	陶芸
10	信楽花入	加藤 重高	陶芸
11	無題	サイタ 亨	水彩画
12	土の祭り 蛾の舞No.1	道北 昭介	油彩画
13	鳥の丘	黒木 重雄	アクリル画 シルクスクリーン
14	さかだち(B)	辻野 精一	油彩画
15	埋もれゆく(1)	宮越 博	水彩画
16	遠い空 I	原田 茂史	油彩画
17	再生	田中 等	彫刻
18	野菜	雨田 正	水彩画
19	デッサン 風の女シリーズより	三浦 勉	デッサン
20	八世森田勘弥の駕籠昇鶯の治郎作	東洲斎 写楽	浮世絵

(2) 高鍋町美術館のあゆみ 2009～2019

高鍋町美術館は高鍋城址のふもと、水を湛える城堀の内側という立地のもとで、「心の発信基地」となるべく1999年11月3日に開館した。展示室入口には、開館以来現在に至るまでに開催された主な企画展を紹介するパネルを設置した。後期は2009年以降から開館20周年までに開催された展覧会の出品作家による収蔵品を展示し、当時のフライヤーをパネルにしたもの設置することで、当館の沿革を知りながら収蔵品を鑑賞するとのできる内容とした。



会期

2019年9月14日（土）～2020年3月26日（木）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

大人210円（168円） 小中高生・高齢者・障がい者100円（80円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

出品数

20点

観覧者数

1, 605人

常設展「高鍋町美術館のあゆみ2009～2019」

令和元年9月14日(土)～令和2年3月26日(木)

展示順	作品名	作家名	技法
1	高鍋町美術館	鳥原茂之	水彩画
2	宇野風景	池田遙邨	日本画
3	十六羅漢図	富岡鉄斎	日本画
4	渓谷晚秋	山内多門	日本画
5	壁化する空間	石井秀隣	油彩画
6	高鍋大師	細川和昭	写真
7			
8	彩鯉之図	柿木章	輪島塗
9	日本刀	和泉守国貞	日本刀
10	日本刀	国次	日本刀
11	水神への謝念(宝石箇)	帖佐美行	彫金
12	織部印華文飾壺	児島塊太郎	陶芸
13	栖のない鳥達No. 3	田中隆吉	油彩画
14	トレド印象	山田藤男	油彩画
15	神楽紀行夜神楽33の舞	弥勒祐徳	油彩画
16	風景	久保田益央	油彩画
17	誕生	清水聖策	油彩画
18	崩れる	増田常德	油彩画
19	けはい	河野 扶	油彩画
20	空間から時間へ	日岡兼三	墨絵

2. 特別展

開館20周年記念企画 感覚と時と空間を旅するプログラム 「パラレル・トラベル」

近年、当館では家族での来場が多い夏休みに合わせて、通常の企画展よりも規模の大きな特別展を開催している。これは、日頃美術に親しみのない方にも関心を持っていただけけるような展示内容で実施し、年に1度は美術館へ足を運んでいただききっかけとなることを目的としている。このような機会の提供は、美術館を身近に感じ、また、その子どもたちが親となった時に美術館に足を運ぶ展開を長期的なビジョンで見据えている。

本展にはアーティスト・山城大督とゲストキュレーター・石川吉典を招聘し、現代アートを介して、日常生活ではあまり気に留めない環境や世界、自らの知覚、あるいは遠い昔を想像し、感覚をひらき意識を向けることで、根元的な私たちの生きている場所を振り返るきっかけを生み出す先端性の高い展覧会を開催した。同時に、高鍋の古墳、農業、畜産など、地域が持つ場所性を感じてもらう仕掛けをアートや関連イベントに織り込み、凝縮された“高鍋で得られる体験全体からの学び”を加えた。本展は、高鍋が学びの多い場所であることを発信し、現代社会に対するメッセージにもなるものであった。イベント等で話題性を生み出し、遠方からのファンや、日頃足を運ばない方たちの来館にもつなげることができた。

会 期

令和元年7月20日（土）～9月1日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観 覧 料

大人800円（600円）

小中高生・高齢者・障がい者400円（300円）

※（ ）内は前売り料金および20名以上の団体料金。未就学児は無料。

※高齢者料金は70歳以上。

※障がい者料金は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。

会 場

高鍋町美術館

主 催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後 援

宮崎県・宮崎県教育委員会・宮崎県市町村教育委員会連合会・宮崎日日新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・西日本新聞社・夕刊デイリー新聞社・NHK宮崎放送局・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

前売り券販売所

●高鍋町内/ 高鍋町美術館・高鍋町観光協会・高鍋温泉めいりんの湯・津久見屋果實店・田中書店高鍋店・T S U T A Y Aたかなべ店 ●宮崎市内/ 宮崎山形屋（本館7Fプレイガイド）・宮交シティ（1Fインフォメーション）・みやざきアートセンター・青木画材店・ひまわり画材料店 ●川南町内/ サンA川南文化ホール ●日向市内/ 勉強堂 ●延岡市内/ 夕刊デイリー新聞社

出品数

6点

観覧者数

1, 721人

関連イベント

①山城大督「感受性のワークショップ」

講師：山城 大督氏（出展作家）

日時：7月20日（土）午前10時～11時30分

場所：多目的ホール

②山城大督アーティストトーク「高鍋での新作について」

講師：山城 大督氏（出展作家）

日時：7月20日（土）午後3時～4時

場所：エントランス

③角銅真実スペシャルLIVE「旅に音」

講師：角銅 真実氏（音楽家/打楽器奏者）

日時：7月21日（日）午後3時～4時

場所：多目的ホール

④時と空間を旅する古墳あるき

講師：亀元 由佳（高鍋町教育委員会）

日時：8月4日（日）午後2時30分～5時

8月18日（日）午後2時30分～5時

9月1日（日）午前10時～12時30分

場所：持田古墳群周辺

⑤手とカタチから感じる古墳箸置き作りワークショップ

講師：当館臨時職員

日時：会期中の土日祝全て、各日2回

午前の回 午前11時～ 午後の回 午後1時30分

場所：休憩室

⑥感覚を旅する！センサリー・メディア・コンテスト

講師：山城 大督氏（出展作家）

日時：9月1日（日）午後2時30分～5時

場所：多目的ホール

「メラレル・トペル」出版作品

-

卷三

3. 企画展

（1）第16回高鍋町美術展覧会（無審査展）

本展は、応募者に対し広く作品発表の場と鑑賞の機会を提供し、地域の美術文化水準の向上を図ることを目的として毎年開催している。

出品テーマを問わない「自由部門」と、今回で3回目となるテーマを定めた「テーマ部門」の2部門を設けている。また、出品作品のなかから気に入った作品に対して観覧者から投票していただいた投票用紙をもとに、各部門の最多得票者への賞状の贈呈と、観覧者からの声（用紙）のお届けを今回も継続し、好評を博した。

会期

平成31年4月20日（土）～令和元年5月12日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

無料

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

応募資格

西都・児湯地区在住者並びに同地区の事業所・学校に通勤・通学している高校生以上の者。※同地区以外の者でも、同地区の絵画・写真・書道教室の生徒は可。

応募部門

①自由部門 ②テーマ部門（テーマ：高鍋の歴史）

応募種目

絵画 写真 書

出品規定

種目	規 定
絵画	<ul style="list-style-type: none">◆ 油彩画・アクリル画・水彩画・日本画・版画とし 8 号～20 号以内。◆ 乾燥したもので平面作品に限る（レリーフ的作品は可。但し、厚みは 10 cm 以内）。◆ 額装または表装したもの。ガラス有り可。◆ 上下の判断がつき難い作品については、裏面に明示のこと。
写真	<ul style="list-style-type: none">◆ 単写真のみ、65 cm × 85 cm 以内のパネル張りか額装（アクリルのみ）。◆ デジタル写真は可。
書	<ul style="list-style-type: none">◆ 半懐紙（36 cm × 25 cm）以上で半折（136 cm × 35 cm）までとする。但し横書きについては 1/2 半折（70 cm）以内。◆ 枠張り額（止め金付き・ひも無し）又は軸装とし、展示に耐えうる丈夫なものとする。◆ 篆刻は印影のみとし、額装すること。 <p>※必ず釈文を提出すること</p>

※上記各種目で使用した素材の著作権・肖像権については、出品者の責任において了承が得られたものとする。

出 品 料

無料

応募条件

各部門とも、本人が制作・撮影した作品に限る。

他の公募展等において入選した作品でも出品可とする。

出 品 数

75 点

観覧者数

418 人

最多得票者

テーマ部門 井上 俊一 氏 「悠久の高鍋城城堀」

自由部門 井上 俊一 氏 「ナンキンハゼ並木（高鍋高校通り）」

第16回高鍋町美術展覧会（無審査展）

会期 | 2019.4.20（土） - 5.12（日）

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

※ 作品情報は順路にあわせて掲載しています。

※ 作品番号は搬入時に受付したときの通し番号となります。

テーマ部門

作品番号	氏名	タイトル	種目	技法
1	柴田 洋子	春の城堀	絵画	油彩
74	富山 恵	しだれ桜（高鍋温泉駐車場）	写真	—
17	福島 正吉	高鍋海水浴場	絵画	油彩
47	宮崎 金男	ひまわり畠	写真	—
20	黒木 カツヨ	高鍋城堀	絵画	油彩
35	堀内 景子	明倫	書	調和体
66	田中 史穂	高鍋大師へ・石に祈る	絵画	油彩
11	坂脇 昭吉	萬歳亭	写真	—
64	田中 隆吉	初夏の城堀	絵画	油彩
56	小森 勢津子	明倫の志	絵画	油彩
22	井上 俊一	悠久の高鍋城城堀	絵画	油彩
48	宮崎 金男	高鍋の風景	写真	—
16	福島 正吉	高鍋城本丸跡への道	絵画	油彩
4	吉松 篤志	宮崎県立高鍋高等学校正姿朗誦句	書	調和体
12	坂脇 昭吉	舞鶴城大手門跡	写真	—
24	篠原 雄一郎	工業	絵画	アクリル

自由部門

一般・企画展示室

作品番号	氏名	タイトル	種目	技法
73	富山 恵	臼太鼓踊	写真	—
13	原 朋輝	中之又神楽初舞の娘と親	写真	—
45	金丸 須美子	一歩づつ	書	調和体
58	荒木 崇之	賀島詩	書	漢字
41	金丸 幸子	無	書	漢字
39	森山 恵美子	ゆるめる	書	調和体
50	小田 近子	音羽山	書	かな
36	堀内 景子	考	書	漢字
26	政木 真美	白銀	書	漢字
57	平岡 ミツ子	濃き墨の	書	調和体
49	長友 紀美子	龍	書	漢字
33	清水 弘子	光陰如矢	書	漢字
42	長友 章夫	剛	書	漢字
32	安藤 恵祐	飛翔	書	漢字

裏面へ→

作品番号	氏名	タイトル	種目	技法
29	野崎 成文	子雀	書	漢字
59	家入 昌子	あけぬとて	書	かな
53	樋渡 紀子	てげてげ	書	かな
60	家入 昌子	石ばしる	書	調和体
27	米村 智子	勢	書	漢字
43	長友 幸子	生かされて	書	調和体
34	横山 延子	東風解凍	書	漢字
51	松尾 由美	胡蝶の夢	絵画	アクリル
10	木本 さよ子	稚児ヶ池	絵画	油彩
61	長友 紀美子	追想	絵画	水彩
75	津貫 志帆	僕のかわりに、今日が呼吸をとめている。	絵画	水彩
69	川澤 稔子	波	絵画	水彩
52	前田 昌樹	月夜	絵画	アクリル
68	森 雅裕	水道	絵画	油彩・アクリル
21	井上 俊一	ナンキンハゼ並木（高鍋高校通り）	絵画	油彩
7	税田 啓一郎	通り浜にて	絵画	油彩
65	永友 文代	春	絵画	水彩
37	堀内 景子	踊	絵画	書画
19	黒木 カツヨ	耶馬溪橋	絵画	油彩
72	杉尾 美咲	さくら	絵画	アクリル
2	長友 晴久	裸婦	絵画	鉛筆
46	桐山 ナヲ	初日の出	絵画	油彩
55	小森 勢津子	早春賦	絵画	油彩
63	田中 隆吉	秋の久住高原	絵画	油彩
71	石井 秀隣	百合	絵画	油彩
14	三嶋 英俊	堀切峠	絵画	油彩
18	田中 撮	Fly Me to the Moon	絵画	油彩
5	柳本 正雄	廃工場	絵画	アクリル
67	田中 史穂	牧場の桜	絵画	油彩
23	篠原 雄一郎	慰靈の館	絵画	アクリル

回廊

作品番号	氏名	タイトル	種目	技法
44	金丸 須美子	あるがままに	書	調和体
70	川澤 稔子	五月の水辺	絵画	水彩
30	野崎 成文	飛	書	漢字
31	安藤 恵祐	勢	書	漢字
15	三嶋 英俊	美々津の海	絵画	油彩
38	長友 章夫	向日葵	書	漢字
62	長友 紀美子	夏の日	絵画	水彩
40	金丸 幸子	無	書	漢字
6	柳本 正雄	桜	絵画	アクリル
28	米村 智子	心いきいき今を楽しむ	書	調和体
3	長友 晴久	運動会	絵画	鉛筆
54	樋渡 紀子	ing	書	その他
9	木本 さよ子	若潮	絵画	油彩
25	政木 真美	勢	書	漢字
8	税田 啓一郎	白い家と尾鈴	絵画	油彩

(2) 瀧下白峰・むつ子 心にしみる絵手紙展

20代から日展・毎日書道展などの書の道を歩んできた瀧下白峰氏と、数々の文芸賞受賞歴をもつ瀧下むつ子氏。白峰氏が公務員在職中に鬱病を患った際に、高鍋町出身の妻・むつ子氏が夫の回復を願って試みたのが二人三脚の絵手紙である。むつ子氏が文を考え、白峰氏がそれを書にして、むつ子氏が絵を添える作風である。その作品は大きな反響を呼び、平成20年に「やちよ絵手紙の森美術館」を千葉県八千代市にてオープンした。作品を制作することによって白峰氏の病状が回復していく、病院やデパート・ギャラリーなど多くの場所で求められるものとなっていました。淡い絵に暖かな詩を優しい筆文字で構成された作品の並ぶ本展は、近年注目されつつある美術による癒しを体現した内容であった。

会期

令和元年6月1日（土）～6月30日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

大人300円（240円）、小中高生・高齢者・障がい者 150円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

※高齢者料金は70歳以上。

※障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後援

宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

出品数

78点

観覧者数

1, 751人



瀧下白峰・むつ子 心にしみる絵手紙展

2019.6.1(土) - 6.30(日)

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町 後援 | 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

一般・企画展示室			
展示順	作品名	モチーフ	素材
1	あの一步	赤いファーストシューズ	墨・顔彩
2	温かな人	フリージヤ	墨・顔彩
3	お蔭さま	しだれ桜	墨・顔彩
4	春夏秋冬	ピンク笹ゆり	墨・顔彩
5	頂いた命	すみれ	墨・顔彩
6	夢は高い所に	スイトピー	墨・顔彩
7	静寂	春蘭	墨・顔彩
8	時(とき)	掛け時計	墨・顔彩
9	感謝	鉄せん	墨・顔彩
10	何もいらない	百日草	墨・顔彩
11	私の居場所	かきつばた	墨・顔彩
12	スイスイ	めだか	墨・顔彩
13	お母さんありがとう	カーネーション	墨・顔彩
14	こころ繋いで	クレマチス	墨・顔彩
15	一輪の花	ナデシコ	墨・顔彩
16	笑ってみるの	アンスリュウム	墨・顔彩
17	微笑(ほほえみ)	どくだみ	墨・顔彩
18	回想	白と赤の芍薬	墨・顔彩
19	夢の薔	山ユリ	墨・顔彩
20	今日の一日	樽入りあじさい	墨・顔彩
21	微笑み	ピンク薔薇	墨・顔彩
22	心美しいひと	夕焼け空	墨・顔彩
23	君らしく	すずめ	墨・顔彩
24	ふる里へ	都わすれ	墨・顔彩
25	おかえり	母子草	墨・顔彩
26	あなたを想う気持ち	すみれ	墨・顔彩
27	仲間がいるから	春の花束	墨・顔彩
28	自分の花	デンファレ	墨・顔彩
29	出逢い	やぶ椿	墨・顔彩
30	自分を研く	花菖蒲	墨・顔彩
31	家内安全	熊手	墨・顔彩
32	人生って面白い	ピンクカラー	墨・顔彩
33	一人じゃないよ	サクランボ	墨・顔彩
34	明日が	おだまき	墨・顔彩
35	幸せは心の中	ヒナゲシ	墨・顔彩
36	精一杯生きよ	葵の花	墨・顔彩
37	前を向いて	れんぎよ	墨・顔彩
38	諦めないで	れんぎよ	墨・顔彩

展示順	作品名	モチーフ	素材
39	さあ、がんばろう	ランドセル	墨・顔彩
40	天命	3頭の馬(天馬)	墨・顔彩

回廊			
展示順	作品名	モチーフ	素材
41	小さな秋	りんどう	墨・顔彩
42	せっかくだから	菜の花	墨・顔彩
43	ゆっくりね	男の子の青いくつ	墨・顔彩
44	蒼い海原	帆掛け船	墨・顔彩
45	みんな仲間	ガラス器のサクランボ	墨・顔彩
46	無限力	兜	墨・顔彩
47	生きるってことは	黒鯛	墨・顔彩
48	どうしたものか	カエル	墨・顔彩・和紙・木
49	ふわりふわり	スイトピー	墨・顔彩
50	人生修行	修行僧	墨・顔彩・和紙・木
51	家族	すずめ	墨・顔彩
52	そろそろゆっくり	ふくろう	墨・顔彩・和紙・木
53	そんな生き方	アマリリス	墨・顔彩
54	黙っていても	どくだみ	墨・顔彩
55	あなたの笑顔	花瓶の大根草	墨・顔彩
56	自分の色	野菜	墨・顔彩
57	真っすぐに生きろ	花しょうぶ	墨・顔彩・和紙・木
58	お母さんありがとう	カーネーション	墨・顔彩
59	さあ、笑って	クリスマスローズ	墨・顔彩
60	風にまかせて	コスモス	墨・顔彩・和紙・木
61	匂	三匹の鮎	墨・顔彩
62	何があっても	ブルーシューズ	墨・顔彩
63	誇り	セカンドスマイル	墨・顔彩
64	嫁ぐ日	花嫁姿	墨・顔彩
65	一期一会	椿	墨・顔彩・和紙・木
66	どんな時も	あじさい	墨・顔彩
67	山あり谷あり	春馬	墨・顔彩
68	道はある日	都わすれ	墨・顔彩
69	本当はね	桜草	墨・顔彩
70	いつの日も	百寿蘭	墨・顔彩
71	笑ってよ	パンジー	墨・顔彩・和紙・木
72	愛すること	花6種	墨・顔彩
73	どんな時も	麦なでしこ	墨・顔彩
74	一途に一本道	登り龍	墨・顔彩
75	志し高く	こいのぼり	墨・顔彩
76	凜と咲く	あじさい	墨・顔彩・和紙・木
77	巡り逢いたい	桜	墨・顔彩
78	生まれ代わっても	2本の白いカラー	墨・顔彩

(3) スペインの空を仰いで 岡野耕三・又木啓子展

本展は、スペインの空の下、長年、美を探求した二人のアーティストを紹介するものである。岡野耕三は1940年岡山県倉敷市に生まれ、1967年にスペインに渡った。卓越した色彩感覚と流れるような筆致によって彩られた抽象画を描き、スペインにおいて「クエンカの日本人画家」として名を馳せた。又木啓子は1952年宮崎県都城市に生まれ、1976年にスペインに渡った。絵画・版画・陶芸などを学び、宇宙からの光にイメージを受け、多様な表現に挑戦している。岡野は2003年にスペインで急逝し、彼の作品を知る機会は少なくなっているが、同じ地で同じ空気を吸いながら異なる世界観をもった二人の作品を同会場で一堂に展示するのは本展が全国で初めての試みである。また、岡野作品の展示は本県初であり、九州で岡野耕三の画業を知る貴重な機会となった。

会期

令和元年10月12日（土）～11月17日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

大人300円（240円）、小中高生・高齢者・障がい者 150円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金。未就学児は無料。

※高齢者料金は70歳以上。※障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後援

宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

出品数

52点

観覧者数

1, 171人

関連イベント

①つくろう！ “わのわ”

講師：又木 啓子氏（出展作家）

日時：10月13日（日）午前10時～午後5時

場所：キッズルーム

②カンテ・フラメンコ

講師：田中 彰氏（歌）・田中悦子氏（ギター）

日時：10月26日（土）午後4時～4時30分

場所：企画展示室

③みんなで20周年をお祝いしよう！ 海辺で“わのわ”

講師：又木 啓子氏（出展作家）

日時：11月3日（日）午前10時～12時

場所：蚊口浜海水浴場

スペインの空を仰いで 岡野耕三・又木啓子展

2019.10.12(土) - 11.17(日)

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町 後援 | 宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎・エフエム宮崎

一般・企画展示室

展示順	作品名	作者	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵
1	オーロラ ユニット	又木 啓子	2012年	アクリル画	395×403.5	個人蔵
2	光の散歩	又木 啓子	2019年	インスタレーション	395×1483.5	個人蔵
3	光の鼓動	又木 啓子	2016年	アクリル画	395×700	個人蔵
4	オーロラⅠ	又木 啓子	2012年	油彩画	130×162×3	個人蔵
5	オーロラⅡ	又木 啓子	2012年	油彩画	130×162×3	個人蔵
6	オーロラⅢ	又木 啓子	2012年	油彩画	130×162×3	個人蔵
7	オーロラⅣ	又木 啓子	2012年	油彩画	130×162×3	個人蔵
8	光の散歩X	又木 啓子	2019年	コラージュ アクリル画	16.8×16.8×2.2	個人蔵
9	光の散歩Y	又木 啓子	2019年	コラージュ アクリル画	17.2×16.8×2.4	個人蔵
10	陽光B	又木 啓子	2011年	油彩画	38.5×55.2×2	個人蔵
11	陽光A	又木 啓子	2011年	油彩画	36.2×55.2×1.7	個人蔵
12	陽光2	又木 啓子	2008年	アクリル画	26.2×32.3×3.6	個人蔵
13	陽光3	又木 啓子	2008年	アクリル画	29.6×26.5×3.5	個人蔵
14	陽光1	又木 啓子	2008年	アクリル画	26.2×32.3×3.7	個人蔵
15	光の鼓動(1)	又木 啓子	2016年	油彩画	81.4×65.3×2	個人蔵
16	文字のない本	又木 啓子	2019年	アクリル画 (変形)	17.7×17.7×10	個人蔵
17	宮崎風景	岡野 耕三	1962年	コンテ 水彩画	19×27×0.5	個人蔵
18	クエンカ風景	岡野 耕三	1976年	シルクスクリーン	57×75×2.3	個人蔵
19	静物	岡野 耕三	1966年	鉛筆画	41×52.5×2.5	個人蔵
20	十一面観音像	岡野 耕三	不明	鉛筆画	54.3×42.8×3.3	個人蔵
21	題不明	岡野 耕三	不明	エッティング	52.5×41×2.4	個人蔵
22	東洋空間の習作	岡野 耕三	1973年	油彩画	75×56.9×2.1	個人蔵
23	干しだこ	岡野 耕三	不明	エッティング	51.3×39.7×2.4	個人蔵
24	干しだこ	岡野 耕三	1964年	デッサン	51.3×39.7×2.4	個人蔵
25	干しだこ	岡野 耕三	1963頃	油彩画	1340×1652×65	岡山県立美術館蔵
26	くるみ	岡野 耕三	1975年	エッティング	42.8×35.2×2.3	個人蔵
27	題不明	岡野 耕三	1974年	エッティング	44.1×36.5×2.4	個人蔵
28	題不明	岡野 耕三	1975年	エッティング	51.3×39.7×2.4	個人蔵
29	題不明	岡野 耕三	1976年	油彩画	55×46×4.8	個人蔵
展示順	作品名	作者	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵
30	題不明	岡野 耕三	1979年	色鉛筆画	52.6×41.1×2.9	個人蔵
31	題不明	岡野 耕三	1975年	油彩画	103.5×73.8×4.4	個人蔵

32	題不明	岡野 耕三	1972年	ペン画	52.5 × 41.1 × 2.9	個人蔵
33	題不明	岡野 耕三	不明	ミクストメディア	52.7 × 43.4 × 5.3	個人蔵
34	コンポジション	岡野 耕三	1990年	ミクストメディア	57.7 × 75.9 × 3.2	個人蔵
35	コンポジション	岡野 耕三	1999年	ミクストメディア	67.6 × 52.9 × 2.9	個人蔵
36	赤によるコンポジション	岡野 耕三	1966年	油彩画	179 × 164 × 3.5	倉敷市立美術館蔵
37	コンポジション	岡野 耕三	1999年	ミクストメディア	67.5 × 52.8 × 2.9	個人蔵
38	コンポジション	岡野 耕三	2002年	ミクストメディア	72.3 × 64.4 × 4.6	個人蔵
39	コンポジション	岡野 耕三	2001年	ミクストメディア	64.5 × 72.3 × 4.6	個人蔵
40	コンポジション	岡野 耕三	2002年	ミクストメディア	72.3 × 64.3 × 4.8	個人蔵
41	もはやひとは 抵抗することをやめ	岡野 耕三	1971年	油彩画	1492 × 1157 × 57	岡山県立美術館蔵
42	コンポジション	岡野 耕三	2001年	ミクストメディア	72.4 × 64.3 × 4.9	個人蔵
43	コンポジション	岡野 耕三	2002年	ミクストメディア	72.3 × 64.4 × 4.6	個人蔵
44	コンポジション	岡野 耕三	2002年	ミクストメディア	72.3 × 64.3 × 4.5	個人蔵
45	コンポジション	岡野 耕三	2001年	ミクストメディア	52.3 × 67.7 × 2.9	個人蔵
46	oleo sobre lienzo(絶筆)	岡野 耕三	不明	油彩画	108.5 × 89.1 × 4.7	個人蔵

回廊

展示順	作品名	作者	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵
47	月の水	又木 啓子	2000年	タペストリー	88 × 164 × 3	個人蔵

中庭

展示順	作品名	作者	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵
48	光の散歩(中庭)	又木 啓子	2019年	インスタレーション	603 × 811	個人蔵
49	TOGARIA星	又木 啓子	1993年	オブジェ	44 × 44 × 11.5	個人蔵

休憩室

展示順	作品名	作者	制作年	技法	サイズ(cm)	所蔵
50	オーロラ	又木 啓子	2012年	レリーフ	139.6 × 63 × 1	個人蔵
51	資料	—	—	—	—	個人蔵
52	1 + 1 in Spain Uno más Una en Cuenca	アルベルト・ベルメッホ 又木 啓子	2019年	映像	11分26秒	個人蔵

(4) 第21回西都・児湯の子どもたちによる絵画展

本展は開館以来、毎年開催されている企画展である。西都・児湯郡内の小学校・中学校・支援学校の全校から、各学校にて選出した作品を出品していただいている。さらに3名の審査員に依頼し、出品作品から優秀な作品を選出し、受賞者には表彰式にて表彰状の授与を行った。各学校での美術活動は常時行われているが、それを一堂に展示する機会は無く、西都・児湯郡内に唯一存在する町立の美術館としての重要な役割を果たしている。

会期

令和元年12月8日（日）～12月22日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

無料

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

後援

西都市・新富町・西米良村・木城町・川南町・都農町・西都市教育委員会・新富町教育委員会・西米良村教育委員会・木城町教育委員会・川南町教育委員会・都農町教育委員会

出品数

454点

観覧者数

934人

審査員

前田 昌樹氏（画家）

田中 隆吉氏（画家）

萱嶋 稔氏（当館元館長）



「第21回西都・児湯の子どもたちによる絵画展」出品リスト(小学校)

No.	自治体	学 校 名	学年	作 品 名	賞
1	西都市	妻北小学校	1年	にじいろのさかな	
2	西都市	妻北小学校	1年	たのしそうなかえる	
3	西都市	妻北小学校	1年	ささぶね 大せいこう！	
4	西都市	妻北小学校	2年	みんなでなかよくおよいだよ	
5	西都市	妻北小学校	2年	ミニカーのたまご	
6	西都市	妻北小学校	2年	かえるがびよおん	
7	西都市	妻北小学校	3年	ニワトリの想像	
8	西都市	妻北小学校	3年	コクルおばあさんとロンドンの街	
9	西都市	妻北小学校	3年	あ～、とんで行つちゃった	
10	西都市	妻北小学校	4年	レインボーの電車	
11	西都市	妻北小学校	4年	サンタ	
12	西都市	妻北小学校	4年	オニヤンマ空へ	
13	西都市	妻北小学校	4年	おまかせコックさん	
14	西都市	妻北小学校	4年	ピーターとコクルおばあさん	
15	西都市	妻北小学校	4年	空をとんでいるコクルおばあさん	
16	西都市	妻北小学校	5年	糸が通らない	
17	西都市	妻北小学校	5年	わっしょい！	
18	西都市	妻北小学校	5年	とび箱	
19	西都市	妻北小学校	6年	ランドセルと思い出の風景	
20	西都市	妻北小学校	6年	ランドセルと思い出の風景	
21	西都市	妻北小学校	6年	思い出のある学校	
22	西都市	妻北小学校	6年	6年間通った学校	
23	西都市	妻北小学校	6年	妻北小の朝の風景	
24	西都市	妻北小学校	6年	学校の中庭	
25	西都市	妻南小学校	1年	博物館の中で骨の恐竜がさわいでる	
26	西都市	妻南小学校	1年	大好きなぞうさん	
27	西都市	妻南小学校	1年	れいぞうこのおく	
28	西都市	妻南小学校	2年	もぐらの家づくり	
29	西都市	妻南小学校	2年	海にいるりゅう	
30	西都市	妻南小学校	2年	おしりたんてい おきやくさんのわすれもの	
31	西都市	妻南小学校	3年	クワガタをとったぞー	
32	西都市	妻南小学校	3年	カブトムシとったよ	
33	西都市	妻南小学校	3年	とびうお	
34	西都市	妻南小学校	4年	ハッピーハロウィン！みんなとの楽しい時間	
35	西都市	妻南小学校	4年	南極のサバイバル	
36	西都市	妻南小学校	4年	クレヨンがおれたとき	
37	西都市	妻南小学校	5年	こわい世界から楽しい世界へ	
38	西都市	妻南小学校	5年	かべの向こうに何がある？	
39	西都市	妻南小学校	5年	注文の多い料理店	
40	西都市	妻南小学校	5年	注文の多い料理店	
41	西都市	妻南小学校	5年	かべの向こうの世界	
42	西都市	妻南小学校	5年	かべの向こうはどんなとこ？	
43	西都市	妻南小学校	6年	宇宙に住めたら	
44	西都市	妻南小学校	6年	思い出の中	
45	西都市	妻南小学校	6年	ひみつの花園みいつけた	
46	西都市	妻南小学校	6年	かべの向こう側	
47	西都市	妻南小学校	6年	やつとあえたね	
48	西都市	穂北小学校	1年	あめがふるふる	
49	西都市	穂北小学校	2年	おねがいごと	
50	西都市	穂北小学校	3年	サッカー	
51	西都市	穂北小学校	4年	楽しかったディズニーランド	

No.	自治体	学校名	学年	作品名	賞
52	西都市	穂北小学校	4年	あやめさんのふしぎなお庭よ	
53	西都市	穂北小学校	5年	かっこいいコンバイン	
54	西都市	穂北小学校	5年	楽しい稻かり	
55	西都市	穂北小学校	6年	夜の秘密基地	
56	西都市	茶臼原小学校	1年	たのしいおうちを つくるぞ	
57	西都市	茶臼原小学校	2年	おりょうりちゅう	
58	西都市	茶臼原小学校	3年	あやめさんのひみつの野原	
59	西都市	茶臼原小学校	4年	神様に会いたい	
60	西都市	茶臼原小学校	5年	愛鳥週間	
61	西都市	茶臼原小学校	6年	カラフル古墳	
62	西都市	都於郡小学校	1年	いってみたいな こんなところへ	
63	西都市	都於郡小学校	2年	ふしぎな島と虫が生まれたよ	
64	西都市	都於郡小学校	3年	マラソンパレード	
65	西都市	都於郡小学校	4年	よかつたね、アガサ	
66	西都市	都於郡小学校	5年	なかよし友達	
67	西都市	都於郡小学校	6年	水墨画家 雪舟	
68	西都市	都於郡小学校 山田分校	2年	ヒトデがつれたよ	
69	西都市	都於郡小学校 山田分校	3年	かもとりごんべえとんでつた	
70	西都市	都於郡小学校 山田分校	4年	ハロウィンカーを読んで	
71	西都市	三納小中学校(小)	1年	フルーツ花火	
72	西都市	三納小中学校(小)	2年	空をとぶりゅう	
73	西都市	三納小中学校(小)	3年	おばけのアッチとドラキュラスープ	
74	西都市	三納小中学校(小)	4年	最高の風景	
75	西都市	三納小中学校(小)	5年	力強いロボ	
76	西都市	三納小中学校(小)	6年	かがみの国のアリス	
77	西都市	三納小中学校(小)	1年	すごーい花火	
78	西都市	三納小中学校(小)	2年	もうすぐゴールだ!!	
79	西都市	三財小学校	1年	あめがいっぱい	
80	西都市	三財小学校	2年	たまごからお花が出たよ	
81	西都市	三財小学校	3年	さきちゃんとノダちゃんのまほうのトマト	
82	西都市	三財小学校	4年	海を見て	
83	西都市	三財小学校	5年	100年たつたら	
84	西都市	三財小学校	6年	たとえ吹雪の中でも…	
85	高鍋町	高鍋東小学校	1年	おてがみ とどけてね	
86	高鍋町	高鍋東小学校	1年	さかなたちとなかよし	
87	高鍋町	高鍋東小学校	1年	たいせつな いのち	
88	高鍋町	高鍋東小学校	1年	たのしい あめの日	
89	高鍋町	高鍋東小学校	2年	てんとう虫のおでかけ	
90	高鍋町	高鍋東小学校	2年	あぶくがいっぱい	
91	高鍋町	高鍋東小学校	2年	うれしそうなけんとくん	
92	高鍋町	高鍋東小学校	2年	せみのせかい	
93	高鍋町	高鍋東小学校	3年	きょだなカラスになった！	
94	高鍋町	高鍋東小学校	3年	ミニトマトが大きくなって びっくり	
95	高鍋町	高鍋東小学校	3年	はなさかじいさん	
96	高鍋町	高鍋東小学校	3年	三年ねたろう	
97	高鍋町	高鍋東小学校	3年	みんな ともだち	
98	高鍋町	高鍋東小学校	3年	シロのクリスマス	
99	高鍋町	高鍋東小学校	4年	コクルおばあさんとねこ	
100	高鍋町	高鍋東小学校	4年	くりを運ぶごん	
101	高鍋町	高鍋東小学校	4年	くじら親子のふきくらべ	
102	高鍋町	高鍋東小学校	4年	コクルおばあさんとねこ	
103	高鍋町	高鍋東小学校	5年	芽生とのはじめてのドライブ	
104	高鍋町	高鍋東小学校	5年	小さなこいのぼりぼうけん	

No.	自治体	学校名	学年	作品名	賞
105	高鍋町	高鍋東小学校	5年	ももたろう	
106	高鍋町	高鍋東小学校	5年	はなちゃんのみそしる	
107	高鍋町	高鍋東小学校	5年	運命の出会い	
108	高鍋町	高鍋東小学校	5年	龍の家族を助けるために	
109	高鍋町	高鍋東小学校	6年	うれしい赤おに	
110	高鍋町	高鍋東小学校	6年	人と仲よくなりたいおに	
111	高鍋町	高鍋東小学校	6年	策を考える	
112	高鍋町	高鍋東小学校	6年	青おにのやさしさ	
113	高鍋町	高鍋東小学校	6年	いつまでも親友だよ	
114	高鍋町	高鍋東小学校	6年	青鬼君、どこ？	
115	高鍋町	高鍋西小学校	6年	まどの外の風景	
116	高鍋町	高鍋西小学校	6年	学校から見た風景	
117	高鍋町	高鍋西小学校	6年	命の水	
118	高鍋町	高鍋西小学校	6年	静かな渡りろう下	
119	高鍋町	高鍋西小学校	2年	海のそこのせかい	
120	高鍋町	高鍋西小学校	2年	かずくんの黄色い長ぐつ	
121	高鍋町	高鍋西小学校	2年	きょうりゅう	
122	高鍋町	高鍋西小学校	1年	うみの中をぼうけんだ	
123	高鍋町	高鍋西小学校	1年	にんげんたちの ぼうけんの山	
124	高鍋町	高鍋西小学校	1年	つもっているゆきのいえ	
125	高鍋町	高鍋西小学校	3年	入学式がうれしかったよ	
126	高鍋町	高鍋西小学校	3年	モチモチの木	
127	高鍋町	高鍋西小学校	3年	モチモチの木	
128	高鍋町	高鍋西小学校	3年	モチモチの木	
129	高鍋町	高鍋西小学校	4年	みんなで桜にうつとり	
130	高鍋町	高鍋西小学校	4年	まほうの花	
131	高鍋町	高鍋西小学校	5年	かがやく空の銀河鉄道	
132	高鍋町	高鍋西小学校	5年	銀河鉄道の夜	
133	高鍋町	高鍋西小学校	5年	きれいな夜の中に…	
134	高鍋町	高鍋西小学校	5年	夜空を走る列車	
135	高鍋町	高鍋西小学校	4年	まぼろしの花	
136	新富町	富田小学校	1年	ユニコーンにのって うみを見た	
137	新富町	富田小学校	1年	クラゲといっしょに お出かけ	
138	新富町	富田小学校	1年	れいぞうこの おくのおく	
139	新富町	富田小学校	1年	れいぞうこの おくのおく	
140	新富町	富田小学校	1年	バッタにのって とびたいな	
141	新富町	富田小学校	1年	チョウになって とびたいな	
142	新富町	富田小学校	2年	サメのあつまり	
143	新富町	富田小学校	2年	ふしぎな たまご	
144	新富町	富田小学校	2年	火山の ふん火	
145	新富町	富田小学校	2年	ふしぎな たまご	
146	新富町	富田小学校	3年	花がさ音頭	
147	新富町	富田小学校	3年	川でとびこんだ	
148	新富町	富田小学校	3年	バスケットボール	
149	新富町	富田小学校	3年	ドッヂボール	
150	新富町	富田小学校	3年	「かさこじぞう」を読んで	
151	新富町	富田小学校	3年	はじめてライオンを見たよ	
152	新富町	富田小学校	4年	月きゅうでんへようこそ	
153	新富町	富田小学校	4年	まほうの自由研究	
154	新富町	富田小学校	4年	「かばた医院のひみつ」を読んで	
155	新富町	富田小学校	4年	「ちょっとだけタイムスリップ」を読んで	
156	新富町	富田小学校	4年	じゃがいもと人	
157	新富町	富田小学校	4年	ひまわり	

No.	自治体	学校名	学年	作品名	賞
158	新富町	富田小学校	5年	4匹のカラフルな金魚	
159	新富町	富田小学校	5年	鶴の羽ばたき	
160	新富町	富田小学校	5年	ジンベエザメ	
161	新富町	富田小学校	5年	ゆうがに泳ぐジンベエザメ	
162	新富町	富田小学校	5年	今がチャンス	
163	新富町	富田小学校	5年	幸せになれるクラゲ	
164	新富町	富田小学校	6年	運動場からの景色	
165	新富町	富田小学校	6年	大きな木が見えるところ	
166	新富町	富田小学校	6年	冬の山	
167	新富町	富田小学校	6年	ぐんぐん育つ木	
168	新富町	富田小学校	6年	きれいな花	
169	新富町	富田小学校	6年	八幡神社	
170	新富町	富田小学校	2年	たまごがわいたら	
171	新富町	新田小学校	1年	くじらにのったよ	
172	新富町	新田小学校	1年	ロープウェイにのって町をみわたそう	
173	新富町	新田小学校	2年	おにはおもしろい	
174	新富町	新田小学校	2年	チーズくんが…	
175	新富町	新田小学校	3年	こわ~い三人組	
176	新富町	新田小学校	3年	ホカリさんのゆうびん局	
177	新富町	新田小学校	4年	おばけやさん	
178	新富町	新田小学校	4年	じっぽ	
179	新富町	新田小学校	5年	魔法にかけられて	
180	新富町	新田小学校	5年	助けた命	
181	新富町	新田小学校	6年	忘れていく記憶	
182	新富町	上新田小学校	1年	ふねにほしをのせているブルドッグたんてい	
183	新富町	上新田小学校	2年	カラフルな鳥	
184	新富町	上新田小学校	3年	ジンベエザメとサメのたたかい	
185	新富町	上新田小学校	4年	アーベ	
186	新富町	上新田小学校	5年	世界に一つだけの木	
187	新富町	上新田小学校	6年	カラフルなわたしのナマエ	
188	都農町	都農小学校	1年	くじらさん ありがとう	
189	都農町	都農小学校	2年	星さん さよなら	
190	都農町	都農小学校	2年	ささぶねにのってあそんだよ	
191	都農町	都農小学校	3年	夜空のたつまき	
192	都農町	都農小学校	3年	夜の汽車	
193	都農町	都農小学校	4年	雲から落ちたおばあさん	
194	都農町	都農小学校	4年	コクルおばあさんとねこ	
195	都農町	都農小学校	5年	ねこにおそわれるしんしたち	
196	都農町	都農小学校	6年	友と一緒に	
197	都農町	都農小学校	6年	ぼくのお気に入りの場所	
198	都農町	都農小学校	2年	ささ船にのって、しゅっぱつだ！	
199	都農町	都農小学校	5年	戸のおくのくうかん	
200	都農町	都農小学校	6年	海の命	
201	都農町	都農南小学校	1年	やった！ 大きなきゅうりだ～でもそれはワニだった～	
202	都農町	都農南小学校	2年	川あそび	
203	都農町	都農南小学校	2年	まほろばのさと	
204	都農町	都農南小学校	3年	こっそりぶどうを食べているくまさんたち	
205	都農町	都農南小学校	3年	もぐらバス	
206	都農町	都農南小学校	4年	バッティング	
207	都農町	都農南小学校	4年	がんばれ25mの旅	
208	都農町	都農南小学校	5年	都農神社	
209	都農町	都農南小学校	5年	都農神社	
210	都農町	都農南小学校	6年	しまい	

No.	自治体	学校名	学年	作品名	賞
211	都農町	都農南小学校	6年	校舎	
212	都農町	都農南小学校	2年	たのしい雨の日	
213	都農町	都農南小学校	3年	さあちゃんのぶどう	
214	都農町	都農南小学校	5年	すてきな友達	
215	都農町	都農東小学校	1年	あめがふる日もたのしいな	
216	都農町	都農東小学校	2年	れいぞのこのおくのおく	
217	都農町	都農東小学校	3年	気をつけていってらっしゃい	
218	都農町	都農東小学校	4年	りっぱな都農神社	
219	都農町	都農東小学校	5年	一つの花	
220	都農町	都農東小学校	6年	いつまでも	
221	都農町	都農東小 内野々分校	1年	パンダ	
222	都農町	都農東小 内野々分校	3年	楽しそうなニワトリ	
223	川南町	川南小学校	1年	くわがた大すき	
224	川南町	川南小学校	1年	大きなお花がこんにちは!!	
225	川南町	川南小学校	1年	によろによろへびがきた	
226	川南町	川南小学校	2年	みつけた	
227	川南町	川南小学校	2年	海でたのしくあそんだよ	
228	川南町	川南小学校	2年	みんな大すき えん足	
229	川南町	川南小学校	3年	馬が海中を走る	
230	川南町	川南小学校	3年	さかなはさかな	
231	川南町	川南小学校	3年	とらにびっくりしておりますよおじさん	
232	川南町	川南小学校	3年	トンネルの中は真っくらだ	
233	川南町	川南小学校	4年	アマガエルのスイミング	
234	川南町	川南小学校	4年	パティシェみたい?それともデザイナー?	
235	川南町	川南小学校	4年	ふしぎなお花	
236	川南町	川南小学校	4年	人魚ひめと船	
237	川南町	川南小学校	5年	ものの思い出	
238	川南町	川南小学校	5年	世界の大どろぼう	
239	川南町	川南小学校	5年	活やくできない大仏様	
240	川南町	川南小学校	5年	大切な命	
241	川南町	川南小学校	6年	みんなの校舎	
242	川南町	川南小学校	6年	窓から見えるあじさい	
243	川南町	川南小学校	6年	母犬の気持ち	
244	川南町	川南小学校	6年	学校の帰り道	
245	川南町	通山小学校	1年	たのしかったダンス	
246	川南町	通山小学校	2年	どんどん上がり!きらきら星!	
247	川南町	通山小学校	2年	雨の海だ!魚がいっぱい!	
248	川南町	通山小学校	3年	スライムが動物になってなべから出て来た	
249	川南町	通山小学校	3年	にじ色のわくわく動物園	
250	川南町	通山小学校	4年	夜しか見られない花~まぼろしの花~	
251	川南町	通山小学校	5年	ひなたぼっこ	
252	川南町	通山小学校	5年	とさつされてしまう牛	
253	川南町	通山小学校	6年	はりねずみのぼう険	
254	川南町	通山小学校	6年	よだかの星	
255	川南町	多賀小学校	1年	だいじょうぶ?	
256	川南町	多賀小学校	2年	かえるとおたまじやくしの国	
257	川南町	多賀小学校	3年	ポケットのないカンガルー	
258	川南町	多賀小学校	4年	世界に2つだけの花	
259	川南町	多賀小学校	5年	マルガリータ ありがとう	
260	川南町	多賀小学校	6年	りゅうの目が覚めた	
261	川南町	山本小学校	1年	シロクマのおひるね	
262	川南町	山本小学校	2年	小魚たちが雨をたべる	
263	川南町	山本小学校	3年	魚つりで、つれちゃった	

No.	自治体	学校名	学年	作品名	賞
264	川南町	山本小学校	4年	空とぶコクルおばさん	
265	川南町	山本小学校	5年	マイネームアート るか様をみつけてみろ	
266	川南町	山本小学校	6年	友達	
267	川南町	川南町立東小学校	1年	まけないぞ!!	
268	川南町	川南町立東小学校	2年	ハロウインのはじまり	
269	川南町	川南町立東小学校	3年	はしれ はまかぜ	
270	川南町	川南町立東小学校	4年	月よのくじら	
271	川南町	川南町立東小学校	5年	かべの外を見た	
272	川南町	川南町立東小学校	6年	楽しい海の中	
273	木城町	木城小学校	1年	いろいろなかえる	
274	木城町	木城小学校	1年	たべちゃうぞ～！	
275	木城町	木城小学校	1年	“やまなし”をよんだよ	
276	木城町	木城小学校	1年	“あめがふるふる”をよんだよ	
277	木城町	木城小学校	2年	かぶとむし たまご	
278	木城町	木城小学校	2年	大食いフィニギンのホネのスープ	
279	木城町	木城小学校	3年	ぴかぴかに光る木	
280	木城町	木城小学校	3年	きょうりゅうたちのたたかい	
281	木城町	木城小学校	4年	小丸川の風景	
282	木城町	木城小学校	4年	「きまぐれロボット」を読んで	
283	木城町	木城小学校	5年	「100年たつたら」を読んで	
284	木城町	木城小学校	5年	天の日をぬすんだうさぎをよんで	
285	木城町	木城小学校	6年	文化の比木神社	
286	木城町	木城小学校	6年	比木神社	
287	西米良村	村所小学校	1年	たべちゃうぞ	
288	西米良村	村所小学校	2年	森の中の公園	
289	西米良村	村所小学校	3年	さあ行くぞ！男の子を助けに…。	
290	西米良村	村所小学校	4年	かがやく村所橋	
291	西米良村	村所小学校	5年	平和な八幡神社	
292	西米良村	村所小学校	6年	輝く生き物たち	
293	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	1年	みのむし み一つけた！	
294	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	1年	みのむし み一つけた！	
295	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	1年	みのむし み一つけた！	
296	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	1年	みのむし！ みつけ！	
297	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	1年	みのむし！ みつけ！	
298	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	2年	きんもくせいのかおり	
299	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	2年	ぼくのぐるんぱ	
300	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	2年	おおきなかぶ ぬけたよ！	
301	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	2年	フラミンゴのタンゴ	
302	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	2年	ガオー！	
303	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	3年	サンタさん	
304	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	3年	サンタのおじさん	
305	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	5年	もみじ	
306	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	6年	カラフルな小山	
307	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	6年	宇宙で遊ぼう	
308	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	6年	ぼくの顔	
309	宮崎県	児湯るびなす支援学校(小)	6年	ぼくの顔	

「第21回西都・児湯の子どもたちによる絵画展」出品リスト(中学校)

No.	自治体	学 校 名	学年	作 品 名	賞
1	西都市	妻中学校	1年	静物	
2	西都市	妻中学校	1年	静物	
3	西都市	妻中学校	1年	静物	
4	西都市	妻中学校	1年	静物	
5	西都市	妻中学校	1年	風景	
6	西都市	妻中学校	1年	静物	
7	西都市	妻中学校	1年	1年の階段	
8	西都市	妻中学校	1年	静物	
9	西都市	妻中学校	2年	成長期	
10	西都市	妻中学校	2年	鳥と私	
11	西都市	妻中学校	2年	自画像	
12	西都市	妻中学校	2年	自分	
13	西都市	妻中学校	2年	自画像	
14	西都市	妻中学校	2年	自画像	
15	西都市	妻中学校	2年	14歳の私	
16	西都市	妻中学校	2年	自画像	
17	西都市	妻中学校	3年	廊下	
18	西都市	妻中学校	3年	風景	
19	西都市	妻中学校	3年	階段	
20	西都市	妻中学校	3年	水道	
21	西都市	妻中学校	3年	立体感のある構成	
22	西都市	妻中学校	3年	怪談	
23	西都市	妻中学校	3年	立体感のある構成	
24	西都市	妻中学校	3年	おもちゃ箱	
25	西都市	穂北中学校	1年	春のとどすれ	
26	西都市	穂北中学校	1年	秋	
27	西都市	穂北中学校	2年	日常の場面	
28	西都市	穂北中学校	2年	あなたの手で明日は晴れる	
29	西都市	穂北中学校	3年	後姿と風景	
30	西都市	穂北中学校	3年	後姿と風景	
31	西都市	都於郡中学校	1年	絵文字	
32	西都市	都於郡中学校	3年	美しい地球	
33	西都市	三納中学校	1年	絵文字	
34	西都市	三納中学校	2年	希望	
35	西都市	三納中学校	3年	私	
36	西都市	三財中学校	1年	絵文字	
37	西都市	三財中学校	2年	自然の抱擁	
38	西都市	三財中学校	3年	僕の選択	
39	西都市	銀鏡中学校	1年	混色の練習と銀鏡の四季	
40	西都市	銀鏡中学校	1年	混色の練習と銀鏡の四季	
41	西都市	銀鏡中学校	2年	読書感想画	
42	西都市	銀鏡中学校	2年	読書感想画	

No.	自治体	学 校 名	学年	作 品 名	賞
43	西都市	銀鏡中学校	3年	動物愛護ポスター	
44	西都市	銀鏡中学校	3年	動物愛護ポスター	
45	高鍋町	高鍋東中学校	1年	あなたのその手が救いとなる	
46	高鍋町	高鍋東中学校	1年	オーロラ	
47	高鍋町	高鍋東中学校	1年	心の声が聞こえますか	
48	高鍋町	高鍋東中学校	2年	レミーのおいしいレストラン	
49	高鍋町	高鍋東中学校	2年	川の光	
50	高鍋町	高鍋東中学校	2年	夏目友人帳	
51	高鍋町	高鍋東中学校	2年	妖怪アパートの幽雅な日常	
52	高鍋町	高鍋東中学校	3年	はだしのゲン	
53	高鍋町	高鍋東中学校	3年	森の魔法使い	
54	高鍋町	高鍋東中学校	3年	秘密	
55	高鍋町	高鍋東中学校	3年	命の食べ方	
56	高鍋町	高鍋東中学校	3年	浜村渚の計算ノート	
57	高鍋町	高鍋東中学校	3年	ネコはどうしてわがままか	
58	高鍋町	高鍋西中学校	1年	色々なスケッチと文字のデザイン	
59	高鍋町	高鍋西中学校	1年	色々なスケッチと文字のデザイン	
60	高鍋町	高鍋西中学校	1年	色々なスケッチと文字のデザイン	
61	高鍋町	高鍋西中学校	2年	着物の柄のデザイン	
62	高鍋町	高鍋西中学校	2年	着物の柄のデザイン	
63	高鍋町	高鍋西中学校	2年	着物の柄のデザイン	
64	高鍋町	高鍋西中学校	2年	着物の柄のデザイン	
65	高鍋町	高鍋西中学校	2年	着物の柄のデザイン	
66	高鍋町	高鍋西中学校	3年	想像の世界「やばい落ちるうー！」	
67	高鍋町	高鍋西中学校	3年	想像の世界「あぶの一まる」	
68	高鍋町	高鍋西中学校	3年	想像の世界「未来の創造」	
69	高鍋町	高鍋西中学校	3年	想像の世界「World of music」	
70	新富町	富田中学校	1年	七日間戦争を読んで	
71	新富町	富田中学校	1年	パパ、90年後に抱っこしてねを読んで	
72	新富町	富田中学校	1年	14歳、明日の時間割を読んで	
73	新富町	富田中学校	2年	涼しい風は自然の風	
74	新富町	富田中学校	2年	戦えメロス	
75	新富町	富田中学校	2年	音楽から形に	
76	新富町	富田中学校	2年	美しい地球を守ろう	
77	新富町	富田中学校	2年	はらじりの滝	
78	新富町	富田中学校	2年	カラーサウンドフィールド	
79	新富町	富田中学校	3年	～想い～	
80	新富町	富田中学校	3年	船出	
81	新富町	富田中学校	3年	好きなものに囲まれて	
82	新富町	富田中学校	3年	心のメモリーズ	
83	新富町	新田中学校	1年	夜暁け	
84	新富町	新田中学校	2年	私の顔	
85	新富町	新田中学校	3年	マイフェイス	
86	新富町	上新田中学校	1年	きれいなランチョンマット	

No.	自治体	学 校 名	学年	作 品 名	賞
87	新富町	上新田中学校	2年	出口	
88	新富町	上新田中学校	3年	Let's Study!!	
89	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
90	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
91	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
92	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
93	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
94	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
95	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
96	都農町	都農中学校	1年	(無題)	
97	都農町	都農中学校	3年	(無題)	
98	都農町	都農中学校	3年	(無題)	
99	都農町	都農中学校	3年	(無題)	
100	都農町	都農中学校	3年	(無題)	
101	川南町	国光原中学校	1年	クラスメイト	
102	川南町	国光原中学校	1年	クラスメイト	
103	川南町	国光原中学校	2年	エンピツ公園	
104	川南町	国光原中学校	2年	クジャク	
105	川南町	国光原中学校	2年	お茶会	
106	川南町	国光原中学校	3年	光の樹	
107	川南町	国光原中学校	3年	希望の道	
108	川南町	国光原中学校	3年	春のかみなり	
109	川南町	国光原中学校	3年	自由	
110	川南町	唐瀬原中学校	1年	空中季節金魚	
111	川南町	唐瀬原中学校	1年	ジャングルとのどかな海	
112	川南町	唐瀬原中学校	1年	夏の夜空の思い出	
113	川南町	唐瀬原中学校	2年	心を映す蝶	
114	川南町	唐瀬原中学校	2年	新★宝島	
115	川南町	唐瀬原中学校	2年	複雑な世界観	
116	川南町	唐瀬原中学校	3年	平和祈願	
117	川南町	唐瀬原中学校	3年	ふと見た右手	
118	木城町	木城中学校	1年	絵文字「秋」	
119	木城町	木城中学校	1年	絵文字「虫」	
120	木城町	木城中学校	1年	絵文字「海」	
121	木城町	木城中学校	1年	絵文字「虹」	
122	木城町	木城中学校	3年	今年の干支「亥」	
123	木城町	木城中学校	3年	夏	
124	西米良村	西米良中学校	1年	絵文字・夏祭り	
125	西米良村	西米良中学校	1年	絵文字・春	
126	西米良村	西米良中学校	1年	絵文字・夏	
127	西米良村	西米良中学校	2年	おったまげ～!!	
128	西米良村	西米良中学校	2年	え！え～！	
129	西米良村	西米良中学校	3年	読書感想画	
130	西米良村	西米良中学校	3年	読書感想画	

No.	自治体	学 校 名	学年	作 品 名	賞
131	西米良村	西米良中学校	3年	読書感想画	
132	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	海	
133	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	月	
134	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	夜空	
135	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	自動車	
136	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	自然の海	
137	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	将来の海の世界	
138	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	きれいなイルカ	
139	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	はなしている魚たち	
140	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	1年	自由に泳ぐ3匹のイルカ	
141	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	3年	力ー 力力力ー 力力力ー	
142	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	3年	くじら	
143	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	3年	ワシラの親子	
144	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	3年	力ニ	
145	宮崎県	児湯るびなす支援学校(中)	3年	ステキなイカ	

※個人情報保護のため学年と作者明は明記しておりません。

(5) 第19回高鍋高校美術・書道部展

本展は高鍋町内に存在する県立高鍋高校の美術・書道部員の作品を中心とした企画展である。作品の制作だけでなく、キャプションづくりや展示作業までを高校生自らが行っている。

アーティストにとって作品の制作だけでなく作品の発表や展覧会の開催もまた重要なものである。高校生という若い年齢時期から作品を発表することを通して豊かな経験をしてもらうことを目的としている。

高校生からは、自身の作品を美術館に展示できる喜びや、展示構成・展示作業の難しさを体験できた様子が見受けられた。

会期

令和2年1月11日（土）～1月19日（日）

開館時間

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで・最終日は午後3時まで）

休館日

毎週月曜日（祝日は除く） 祝日の翌日（土日は除く）

観覧料

無料

会場

高鍋町美術館

主催

高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

協力

高鍋高等学校

出品数

324点

観覧者数

413人



書道部員と作品紹介

部員名	作品名	部員名	作品名
3年		2年	
大森 雄太	杜甫詩 高文祭奨励賞 西都市美展準特選 李白詩 席上揮毫大会優秀賞	佐藤 垣弥	方澤詩
神崎 明里	臨 吳昌碩 席上揮毫大会優秀賞	工藤 桜時	李頌詩 高文祭優秀賞
岩井 春華	元明詩概説	永住 美月	李白詩 宮日美展入選 高文祭優秀賞 臨 牛齋造像記
黒木 琴乃	臨 王鐸 席上揮毫大会第3位	高戸 瑛葉	臨 吳昌碩
杉尾 歩美	杜甫詩 席上揮毫大会優秀賞	原澤 芽生	臨 争坐位文稿
三好 麻央	杜甫詩 宮日美展入選 高文祭優秀賞 杜甫詩	広島 佑香	寄參詩 高文祭九州大会選抜賞
佐光 円香	王維詩 県美術展入選 高文祭優秀賞	高田 梢葉	王維詩 宮日美展入選 高文祭優秀賞
西森 那美	臨 吳昌碩 席上揮毫大会優秀賞	松方 美羽音	王漁洋詩 臨 吳昌碩
1年			
黒木 心		臨 牛齋造像記	
杉尾 実香		臨 高貞碑	
太田 百香		臨 争坐位文稿	
内匠屋 杏実		臨 牛齋造像記	
中村 彩愛		臨 蘭亭序	
樋口 桃果		臨 牛齋造像記 高文祭奨励賞	

● 書道部

【合作】

- ・ 今年の抱負（子）・錫書カルタ（1年）・好きな歌の歌詞（1年）
- ・ 自由創作（2年）・書道パフォーマンス作品・【明るい選華コンクール出品作品】

● 書道選抜生 1年（古典臨書作品）

● 書道選抜生 旧2年（好きな言葉）

● 書道選抜生 2年（古典臨書作品）（篆刻）

● 306（篆字）

美術部員と作品紹介

2年		
部員名	作品名	作品形式
甲斐 泰斗	GUM社会	絵画
影石 敦己	夜明け	絵画
草野 優美	宮崎ほっこりコースター	デザイン
倉本 里良 永田 朱夏	妖月記	映像 (アニメーション)
是澤 琴羽	つかむ	彫刻
松元 紀光夏	宮崎は 美味しいでできている	映像 (ストップモーションアニメーション)

1年		
部員名	作品名	作品形式
今井 真心人	想いをつなぐ	絵画
島埜内 壮太	初心	絵画
都原 心優	目覚め	CG
	小作品集	CG
福岡 朋佳	挑戦	絵画
	鳴海ヶ丘祭ポスター	イラスト

美術選択生作品

●1年 自画像

ピクトグラムのデザイン

●2年 ピクトグラムのデザイン

バターナイフ

●3年6組 ポートレート

III 普及活動

1. 美術講演会

日 程	演 題	講 師	参加者数
令和元年6月29日(土)	いきいき生きる	瀧下 むつ子氏(出展作家)	68
令和元年7月20日(土)	高鍋での制作について	山城 大督氏(出展作家)	26
令和元年7月21日(日)	角銅真実スペシャルLIVE「旅の音」	角銅 真実氏(音楽家/打楽器奏者)	75

2. 美術教室

(1)ワークショップ(申込型)

日 程	内 容	講 師	参加者数
令和元年6月22日(土)	東平原子ども会	青井 美保(当館学芸員)	39
令和元年7月30日(土)	なつからぶ	青井 美保(当館学芸員)	45
令和元年8月17日(土)	美々津・南日向公民館	青井 美保(当館学芸員)	15
令和元年10月6日(日)	西小学校少人数クラス	青井 美保(当館学芸員)	53

(2)ワークショップ(募集型)

期 日	内 容	講 師	参加者数
令和元年5月5日(日)	和菓子設計室	青井 美保(当館学芸員)	12
令和元年6月1日(土) 6月2日(日)	絵手紙体験教室	瀧下 むつ子氏(出展作家)	23
令和元年7月20日(土)	感受性のワークショップ	山城 大督氏(出展作家)	13
令和元年8月4日(日) 8月18日(日)9月1日	時と空間を旅する古墳あるき	亀元 由佳(高鍋町教育委員会)	67
令和元年11月3日(日)	みんなで20周年をお祝いしよう!海辺で “わのわ”	又木 啓子氏(出展作家)	24

(3)ワークショップ(自由参加型)

期 日	内 容	講 師	参加者数
令和元年7月20日(土) ~9月1日(日)	手とカタチから感じる古墳箸置き作りワーク ショップ	当館臨時職員	109
令和元年9月1日(日)	感覚を旅する!「センサリー・メディア・コンテ スト」	山城 大督氏(出展作家)	34
令和元年10月13日 (日)	つくろう!“わのわ”	又木 啓子氏(出展作家)	19
令和元年10月26日 (土)	カンテ・フラメンコ	田中 彰氏(歌)・田中悦子氏(ギター)	28

(4)その他

期 日	内 容	担 当 者	参 加 者 数
令和元年12月11日 (水)	第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき関 連事業・フィールドワーク	青井 美保(当館学芸員)	14
令和2年3月11日(水)	高鍋町立学校教員領域別部会	青井 美保(当館学芸員)	7

3. インターンシップ

期 日	内 容	担 当 者	参 加 者 数
令和元年12月3日(火)	妻高校職場体験	青井 美保(当館学芸員)	1

4. アウトリーク活動

期 日	内 容	担 当 者
令和元年11月16日	シンポジウム「みやざき アート つながる」	青井 美保(当館学芸員)

5. 寄稿

期 日	内 容	担 当 者
令和2年3月31日(火)	九州保健福祉大学・博物館学年報 論文「地域社会における美術館について」	青井 美保(当館学芸員)

IV 施設利用

1. 展示室

(1) 常設展月別観覧者

月	開館 日数	個人			団体			共通観覧券			免除	招待	合計
		大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者	未就学 児	大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者	未就学 児	大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者	未就学 児			
	日	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
4	22	11	9										20
5	20	32	38										70
6	26	403	441								121	169	1,134
7	17	120	43			27					140	70	400
8	26	370	158								356	270	1,154
9	15	70	27								20	41	158
10	22	98	90								299	43	530
11	23	125	73								113	87	398
12	17	6	3		28								37
1	19	21	8								5	9	43
2	24	18	15										33
3	0												0
計	231	1,274	905	0	28	27	0	0	0	0	1,054	689	3,977

(2)展覧会観覧者

展覧会名	会期	会場	日数	入場者数(個人)		入場者数(団体)	
				大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者	大人	小中高生・ 高齢者・障 がい者
第18回高鍋高校OB美術展	4/2~4/7	企画展示室	6				
第16回高鍋町美術展覧会 (無審査展)	4/20~5/12	企画展示室	19				
小松キクエ 喜寿展	5/17~5/24	企画展示室	8				
瀧下白峰・むつ子 心にしみる絵 手紙展	6/1~6/30	企画展示室	26	403	441		
感覚と時と空間を旅するプログラ ム「パラレル・トラベル」	7/20~9/1	企画展示室	38	540	237		
スペインの空を仰いで 岡野耕 三・又木啓子展	10/12~11/17	企画展示室	31	210	159		
第21回西都・児湯の子どもたち による絵画展	12/8~12/22	企画展示室	13				
第19回高鍋高校美術・書道部展	1/11~1/19	企画展示室	8				
第21回高鍋町美術協会展	1/22~1/29	企画展示室	8				
児湯支部書展	1/22~1/29	回廊	8				
墨友誌観賞欄作品展	1/22~1/29	エントランス	8				
第43回町内小中学校読書感想 画展	2/1~2/16	企画展示室	13				
高鍋町美術館実技講座 生徒作品展※中止	3/7~3/22	企画展示室	0	0	0		
計	—	—	186	1,153	837	0	0
合計							

無料	招待	合計						
無料・免除 (未就学児 を含む)	招待	有料展			無料展			
		企画展	ギャラリー展	回廊	企画展	ギャラリー展	回廊	エントランス
223						223		
418					418			
337							337	
738	169	1,751						
516	428	1,721						1,721
676	126	1,171						
934					934			
413					413			
620						620		
							0	
87								87
384						384		
0					0			
5,346	723	4,643	—	—	1,765	1,227	337	1,808
								9,780

2. 多目的ホール・実習室

月	日	曜	使用箇所	時間帯	行 事 名	参加者
4	3	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	3
	4	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	9	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	9
	10	水	実習室	午前	絵手紙教室	11
	10	水	実習室	午後	水墨画05	2
	11	木	実習室	午後	簿記研究会	3
	12	金	ホール・実習室	午後	2019年度高鍋高校探究科学コース対面式	130
	20	土	ホール	午前・午後	TSUTAYA上映会	14
	20	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	11
	20	土	実習室	午後	自主パステル講座	9
	23	火	ホール	午前	高齢者クラブ総会	100
	23	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	7
	23	火	ホール・実習室	午後	商品衛生協会総会	100
	25	木	実習室	午後	簿記研究会	6
	26	金	実習室	午前	絵手紙(鶯草)・水墨画講座	8
	26	金	実習室	午後	遊技場組合	9
5	1	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	3
	5	日	ホール・実習室	午前・午後	ワークショップ 和菓子設計室	12
	8	水	実習室	午前	絵手紙教室	11
	8	水	ホール	午後	高鍋町IoT事前テスト	2
	8	水	実習室	午後	水墨画05	2
	9	木	実習室	午後	簿記研究会	5
	16	木	実習室	午後	簿記研究会	5
	17	金	実習室	午後	絵手紙ぶ~け	7
	18	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	11
	18	土	実習室	午後	自主パステル講座	6
	21	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	7
	21	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	4
	22	水	実習室	午後	同窓会打合せ	8
	23	木	ホール	午前	高鍋町IoT事前テスト	2
	23	木	実習室	午後	簿記研究会	10
	24	金	ホール	午前・午後	明るい選挙宮崎県市町村推進協議会児湯支部役員会・総会	60
	24	金	実習室	午前	絵手紙(鶯草)・水墨画講座	7
	24	金	実習室	午後	明るい選挙宮崎県市町村推進協議会児湯支部役員会・総会	14
6	26	日	ホール	午前・午後	子ども映画界	260
	1	土	ホール	午前・午後	絵手紙体験教室	16
	2	日	ホール	午前・午後	絵手紙体験教室	7
	4	火	ホール	午前・午後・夜間	高鍋町IoT事業カンファレンス	150
	4	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	7
	5	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	4
	6	木	実習室	午後	簿記研究会	6
	11	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	8
	12	水	実習室	午前	絵手紙教室	11
	15	金	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	9
	15	金	実習室	午後	自主パステル講座	8
	18	火	ホール	午前	年金事務所	38
	19	水	実習室	午前・午後	20周年展監視パート面接	3
	20	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	20	木	ホール	夜間	わかば保育園	251
	21	金	実習室	午後	絵手紙ぶ~け	6
	22	土	ホール・実習室	午前・午後・夜間	東平原子ども会ワークショップ	39
	25	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	6

6	27	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	28	金	実習室	午前	絵手紙(鷺草)・水墨画講座	7
	28	金	実習室	午後	遊技場組合	10
	29	土	ホール・実習室	午前・午後	講演会「いきいき生きる」	68
7	7	日	ホール・実習室	午前・午後	コンサートのリハーサル	24
	9	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	9
	9	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	6
	10	水	実習室	午前	絵手紙教室	10
	10	水	実習室	午後	水墨画05	2
	11	木	実習室	午後	簿記研究会	5
	12	金	実習室	午後	絵手紙ぶ~け	6
	20	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	10
	20	土	実習室	午後	自主パステル講座	7
	20	土	ホール	午前	山城大督「感受性のワークショップ」	13
	21	日	ホール	午後	角銅真美スペシャルライブ「旅に音」	75
	23	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	7
	24	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	2
	25	木	実習室	午後	簿記研究会	3
8	26	金	実習室	午前	絵手紙(鷺草)・水墨画講座	8
	30	火	ホール	午後	なつかづ	46
	31	水	ホール・実習室	午前・午後	中3キャリア教育講演会	16
	1	水	ホール・実習室	午前・午後	中3キャリア教育講演会	119
	6	水	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	6
	8	木	実習室	午後	簿記研究会	5
	16	金	実習室	午後	絵手紙ぶ~け	6
	17	土	ホール	午前	南日向公民館・美々津公民館	15
	17	土	実習室	午後	自主パステル講座	4
	21	水	実習室	午後	水墨画05	2
9	22	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	27	火	ホール	午前	令和元年度児湯地方教育委員会連絡協議会夏季研修会	44
	27	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	8
	14	土	ホール・実習室	午前・午後	40周年コンサート	214
	15	日	ホール・実習室	午前・午後	ブータン王国に日本語学校を設立するためのチャリティーコンサート	200
	18	水	実習室	午前	絵手紙教室	7
	18	水	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	6
	19	木	実習室	午前	なるみ会同窓会準備委員会	13
	19	木	実習室	午後	簿記研究会	5
	19	木	ホール	夜間	児湯保育会保育士研修	200
10	20	金	実習室	午後	絵手紙ぶ~け	8
	21	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	10
	21	土	実習室	午後	自主パステル講座	6
	25	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	7
	25	水	実習室	午後	水墨画05	2
	26	木	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	7
	27	金	実習室	午前	絵手紙(鷺草)・水墨画講座	7
	27	金	ホール・実習室	夜間	在宅福祉施設の災害時連携	76
	1	火	ホール・実習室	午前・午後	第53回「町民の日」記念式典、第52回高鍋町社会福祉大会	150
	2	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	2
10	3	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	6	日	ホール	午前	高鍋西小学校少人数クラスレクレーション	53
	16	水	実習室	午前	絵手紙教室	8
	16	水	実習室	午後	水墨画05	2
	17	木	実習室	午後	簿記研究会	5

10	18	金	実習室	午後	絵手紙ぶ～け	4
	19	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	10
	19	土	実習室	午後	自主パステル講座	6
	22	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	6
	22	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	2
	24	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	25	金	実習室	午前	絵手紙(鶯草)・水墨画講座	8
	26	土	ホール・実習室	夜間	保育力向上委員会保育士研修	75
	31	木	実習室	午前	高鍋町文化祭作品制作	17
	2	土	ホール	午後	ビデオの日映画上映会	34
11	6	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	3
	6	水	実習室	午後	水墨画05	2
	7	木	実習室	午後	簿記研究会	3
	9	土	ホール・実習室	午前・午後	宮崎県年金協会高鍋地区協会会員のつどい	291
	10	日	ホール・実習室	午後	ピアノ教室発表会	45
	12	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	9
	12	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	4
	13	水	実習室	午前	絵手紙教室	9
	13	水	ホール	午後	高鍋地区社会保険委員大会	60
	14	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	15	金	実習室	午後	絵手紙ぶ～け	5
	16	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	10
	16	土	実習室	午後	自主パステル講座	9
	22	金	実習室	午前	絵手紙(鶯草)・水墨画講座	6
	23	土	ホール・実習室	午前・午後	第5回Libライブ	78
	26	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	7
	28	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	29	金	ホール・実習室	午後	発表会(福祉課)	5
	30	土	ホール・実習室	午前・午後	発表会(福祉課)	350
12	3	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	7
	10	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	7
	12	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	18	水	実習室	午後	水墨画05	2
	19	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	20	金	実習室	午後	絵手紙ぶ～け	7
	21	土	ホール	午後	宮崎県看護協会研修	70
	21	土	実習室	午後	自主パステル講座	7
	26	木	実習室	午後	簿記研究会	4
1	7	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	4
	15	水	実習室	午前	絵手紙教室	8
	16	木	実習室	午後	簿記研究会	3
	17	金	実習室	午後	絵手紙ぶ～け	7
	18	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	3
	18	土	実習室	午後	自主パステル講座	7
	19	日	ホール	午前・午後	ピアノ・エレクトーン発表会	50
	22	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	3
	22	水	ホール	午前・午後	認知症予防セミナー	100
	23	木	実習室	午後	簿記研究会	3
	24	金	実習室	午前	絵手紙(鶯草)・水墨画講座	8
	25	土	ホール・実習室	午前・午後	高鍋町美術協会展ホールイベント	121
	26	日	ホール・実習室	午前・午後	秋月種茂公没後200年シンポジウム	270
	28	火	実習室	午前	重ね切り絵研究会	7
	29	水	実習室	午後	水墨画05	2

1	30	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	31	金	ホール	午前	令和元年度子ども読書まつり準備	4
2	1	土	ホール	午前	令和元年度子ども読書まつり	116
	4	火	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	6
	5	水	実習室	午前	消しゴムはんこ教室	3
	6	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	6	木	実習室	夜間	西都地区ロールプレイング大会	58
	7	金	ホール・実習室	午前	高鍋地区暴力追放推進大会	80
	8	土	ホール・実習室	午前・午後	認知症シンポジウム	252
	11	火	実習室	午前	切り絵ぽっぽ	8
	11	火	ホール	午後	稻田音楽教室発表会	50
	15	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	10
	25	土	実習室	午後	自主パステル講座	9
	15	土	ホール	午後・夜間	ナチュラルサウンズオーケストラ定期コンサート	26
	15	土	ホール・実習室	午前・午後	ナチュラルサウンズオーケストラ定期コンサート	187
	20	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	21	金	実習室	午後	絵手紙ぶ～け	4
	22	土	ホール	午後	「紫木蓮」ライブペインティング	60
	26	水	実習室	午前	絵手紙教室	10
	26	水	ホール	午後	第10回強化・領域別部会	120
	26	水	実習室	午後	水墨画05	2
	27	木	実習室	午後	簿記研究会	4
	28	金	実習室	午後	バレン・タ・in高鍋	6
	29	土	実習室	午前	超リアル色鉛筆講座	8
3	新型コロナウィルス県内発生に伴う臨時休館により使用実績なし					

合計 5,791

V 収蔵資料

1. 作品収蔵状況

分類		美術品										
所蔵品数		日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
		寄贈	9	174	201	29	55	2	32	14	83	599
		寄託	8	2	1	2	133	2	66	0	16	230
	小計	17	176	202	31	188	4	98	14	99	829	

(令和2年3月31日現在)

2. 資料の貸出

なし

VI 学芸員記録 (culture)

この「culture」は当館が実質的に主催した展覧会を、原則として主催者の立場で記録したものである。毎年、地域色のある展覧会を開催しているが、それに伴う図録の作成が実現できていないため、その特色を概観することを目的として記録している。

同じ目的をもって平成30年度より「デジタルアーカイブ（記録集）」を別途作成する事業をスタートした。本来図録を作るべき企画展においてその予算が得られなかつた際、“データ上の”図録を作成するというものである。ウェブ上における情報の揮発性の高さや改ざんのリスクなどは認識しており、あくまでも暫定的な対処法であると考える。なお、高鍋町美術館では、この“データ上の”図録も、最小限の部数は印刷保管している。加えて、国立国会図書館に納本している。なお、全文は高鍋町美術館ホームページにて公開している。

http://www.town.takanabe.lg.jp/material/files/group/17/darchive_20191012spainten.pdf

「岡野耕三・又木啓子作品を展示して見えてきたもの」

青井美保

(高鍋町美術館学芸員)

はじめに

岡野耕三は1940年、岡山県児島郡味野（現・岡山県倉敷市）に生まれた。1967年にスペインに渡り、現地において「クエンカの日本人画家」として名を馳せた抽象画家である。又木啓子は1952年、宮崎県都城市に生まれた。1976年にスペインに渡り、絵画・版画・陶芸など多様な表現で宇宙からの光を表現する画家である。1978年ごろ二人は出逢い、その後生涯のパートナーとして制作の場を共にした。

本稿は、二人の作品を同一会場で展示する初の機会となった企画展「スペインの空を仰いで　岡野耕三・又木啓子展」出品作品を中心に、二人の作風の変遷を整理すると共に、互いの作風への影響などについて考察することを目的としている。

1. 岡野耕三

本展の岡野耕三作品のなかで最も古い時期に制作された作品は、『宮崎風景』（1962年）であり、作品自体に朱色の鉛筆で「宮崎※海老の '62/8」と明記してある（原文ママ。正しくは『えびの』）。岡野は又木と出会う以前に、既に宮崎を訪れていたのだ。会期終了後に筆者が又木から聞き及んだところによれば、岡野には東京藝術大学時代に小林市出身の同級生があり、その郷里へ足を運んだらしいとのことであった。筆者はこの同級生が前田利昌である可能性が高いと考えた。年齢や出身校、小磯良平教室出身などの共通点から推測した結果である。実際、前田に確認を取ったところ、岡野が小林市へ訪ねてきたことがあるとの確認をとることができた（2020.2.1 電話による聞き取り/青井）。

力強いコンテの線に、肌色や藍色、鈍い緑色の配色。えびの高原を描いた風景であることは一見して分かるが、その描写は非常に抽象的で、風景のなかに溶け込む自然造形の輪郭線をデフォルメし、抑揚のある力強い線をもって表現している。画面に現れる得体の知れない軟体のような存在感は、特徴的な表現がこのときすでに岡野のなかに生まれていることを物語っている。

『宮崎風景』岡野耕三（1962年・個人蔵）

岡野が宮崎を訪れた2年後、大学生であった彼は執拗に「干しだこ」を描いている。岡野の出身地は岡山県児島郡味野（現・岡山県倉敷市）である。そこから車で10分ほどのところにある下津井地区には、田之浦港・吹上港・下津井港と三つの港があり、現在も当時からの風情を残している。瀬戸内海の冬の風物詩として有名な「干しだこ」は、瀬戸大橋のたもとで、大きいものでは60cmもあるマダコの足を広げて、寒風に晒されている。干しだこをモチーフとしたのは、郷土を懐かしんでのことだろうか。本展に出品され

た作品だけ挙げても、岡野はデッサン・エッチング・油彩と、干しだこをモチーフにして多様な表現に挑んでおり、その技法ならではの特色を生かして干しだこの魅力をそれぞれ明確に表現している。

岡野はこの特異な光景「干しだこ」を具象的にフォルムとして掴んだのちに、抽象画へとデフォルメしている。彼はその光景を、乳白色に薄ピンク色の混じった透明感のあるタコの色、ぬめりの感じられる質感、脱力感たっぷりにだらりとしたフォルムで描いた。干



しだこ一つ一つがまるで新種の生物のように神秘的である。画面全体が赤色に染まり、一番左のタコにいたっては今にも空間へと溶け込みそうだ。そしてタコの向こうには、穏やかな風景が簡略化され描かれている。著者には、港の海面と、その向こうにたたずむ山並みのように見受けられた。

『干しだこ』 岡野耕三

(1963年・岡山県立美術館蔵)

『赤によるコンポジション』は岡野が卒業制作として手掛けた作品であり、大橋賞受賞作品でもある。この評価から、東京藝術大学が如何に岡野に対して多大な期待を寄せていたのかが窺い知れる。筆者がこの作品を図版でのみ認識した際には、岡野の全盛期の作品とは表現スタイルが大きく異なっている印象を受けた。彼の作品がもつ共通項のようなものが感じ取れなかつたのである。だが、実物との対峙によりその印象は一変した。岡野が後に描く抽象画の世界観は、この時すでに画面上に確立されていたことを、不思議なほどに実感するに至ったのである。

この作品の画面は『干しだこ』と同じ“赤”で構成されている。“赤”へのこだわりについて、岡野は生前こう述べている。

“卒業制作というのは人体を扱うという規定があったからそうしただけで、むしろ赤という色彩に思いががあったんです。透明感とか、下地にどういうものを使ったらどう発色するかとか、僕には、赤は一番勉強しやすい色だったんですよ。”（岡野耕三作品集 2000年発行 p. 146）



自らのなかにある独自の世界観を、どのように表現すればよいか—。当時の岡野はそこに至るまでの“実験”として、その世界を模索していたのではないだろうか。また、それを追求する次のステージとしての、スペインの選択も非常に興味深い。この作品は、岡野の作家人生における分岐点となる作品であろう。

『赤によるコンポジション』岡野耕三

(1966年・倉敷市立美術館蔵)

本展において最後の展示室には、大小さまざまな「コンポジション」を配置した。共通点として、淡い色彩、たっぷり取られた余白、動きのある筆跡などが挙げられる。コンポジションシリーズに移行したのち、岡野の作品からは具象的なモチーフが見当たらなくなってしまった。その作風は岡野が50代の頃から没するまでの約10年に渡り続いた。絶筆とされている『oleo sobre lienzo (絶筆)』も同一であると言えよう。

ここで、この作品タイトルについての補足を加えたい。本作の作品タイトルは実のところ不明である。oleo sobre lienzoとは、スペイン語で“キャンバスに油彩”という意味でしか



ない。つまり『oleo sobre lienzo (絶筆)』とは、“絶筆の油彩画”ということである。今回、それぞれの作品認識のしやすさを目的に、又木啓子氏との話しあいの末、仮に『oleo sobre lienzo (絶筆)』というタイトルで展示した経緯があつたことをここに記しておく。

又木によれば、晩年岡野はこの『oleo sobre lienzo (絶筆)』について「完成しているのだ」と言いつつも、サインせずに何年もアトリエに置いて見ていたという。岡野のオランダ人の友人が購入したいと申し出、三度ほど自宅を訪問したが、岡野はサインをするに至らなかった。その友人はいつもがつかりして帰っていった。岡野はこの作品について、「サインをすると自分の手から離れてしまうようだ」と、つぶやいた。

『oleo sobre lienzo (絶筆)』

岡野耕三

(制作年不明・個人蔵)

岡野は、渡欧前は具体的なモチーフからインスピレーションを受け制作していたと見受けられるが、渡欧後は自身の内面から生まれたものをベースに、筆の動きをもってとりどりの色を無駄なく画面構成する形へと変化した。渡欧前の作品と比較する“赤”以外の色も自在に配置されるようになり、ある意味では開放的である。

“コンポジション”という言葉は、美術の世界では“絵画の構図”的意で使われている。その作品が瞬間のはかない美しさを描きとめるような作風へと移行していった背景には、

それこそが“新しい典型”であると岡野が確信していたためではないかと、筆者は考えるのである。

ここで、“新しい典型”という言葉の根拠となる、岡野の言葉を引用しておきたい。

“ピカソは一生の間にスタイルをいくつも変えている。青の時代とかキュビズムの時代とか…。そして、それが当時の多くの画家たちの先駆けになったわけですが、いまは、それを乗り越えて何かを作るんじゃなくて、一人の絵描きとして横に並べればいいんですよ。新しい典型を作ればいいんだから。”（岡野耕三作品集 2000年発行 p. 150）



『もはやひとは抵抗することをやめ』

岡野耕三

（1971年・岡山県立美術館蔵）

コンポジションシリーズの多くは余白が白であるが、色のついた作品も少なからず存在している。

1971年に制作された「もはやひとは抵抗することをやめ」は、岡野耕三の画業を語る上で、避けて通れない作品である。核のような何かが宙に浮かぶこの作品の世界観は、“具象”と“抽象”という違いこそあれど、筆者が鑑賞した岡野作品のなかでは倉敷市立美術館が所蔵する『ラ・マンサナ（りんご）』（本展では展示していない）と最も近い。『ラ・マンサナ（りんご）』は林檎を幻想的に描いた具象画である。確かに存在する物質のなかに、混沌としたなにかが内蔵されている。しかもその内蔵物は、外的空間と同一であるかのような感覚さえ抱かせる（本展での展示作品のなかでは、『くるみ』（1975年）が近いタイプの作品である）。一方、『もはやひとは抵抗することをやめ』は、抽出された内蔵物が宙に浮かんでいるような抽象画である。両者を比較すると、『もはやひとは抵抗することをやめ』はコンポジションシリーズへと向かった岡野の、具象から抽象へのまさに転機たる作品であるように見受けられる。岡野生きいま筆者にできるのは、描かれた作品や制作年、残された言葉などを頼りに、折々の彼の心境を想像することくらいである。しかし本展の開催をもって、岡野が“新しい典型”に行きつくまでの変遷は、きわめて実験的でありながらも着実な足取りであった様子が浮かび上がった。

2. 又木啓子

岡野耕三の追及したものが“新しい典型”だとしたら、又木啓子のそれは“オリジナリティの多様性”だ。本展を開催するにあたり、又木に最初の渡欧の理由を聞いたところ、「スペインはアーティスト個々の表現を受け入れる風土がある」という言葉が返ってきた。彼女は過去にも、「今世紀各自の原型を創り出した巨匠らの生まれ育った」スペインを知りたいと語っている（MESSAGE p. 44より）。歴史から学ぶでもなく、技術から学ぶでもない。自分が嬉々として自由に表現できる場所—そのようなニュアンスを、著者は

その言葉から受け取った。

又木は渡欧後、油彩画・銅版画・陶芸と次々に制作技術を習得しており、本展においてもそのすべてが反映されたインスタレーション作品を展示している。若き日に習得した技術がこのような形で結実するとは、本人も想像だにしていなかつたに違いない。

また、又木の作品は、たとえ同じ画材と画風で制作されていたとしても、どれが新作であるのか明らかに分かる。これは、彼女がその時代の時代性とでもいうべき雰囲気を纖細に感じ取り、作品に反映してきた証左であろう。

又木は予てより環境デザインにも強い関心を持っている。彼女は北泉橋（都城市・1999年）や散歩道“光”（都城市・2001年）、太陽広場（スペイン・クエンカ県・2006年）、皇子原公園内のTOGARIA星広場（高原町・2016年）などの作品を発表しているが、このような国境を越えた幅広い制作を可能としているのは、限られた条件を最大限に楽しめるという彼女の持つ素質に依るところが大きい。時間の経過とともに存在感が薄れてしまった既存の環境に、又木が手を加えることで新しい息吹が吹き込まれるさまが見て取れる。また、近年彼女は依頼を受け神柱宮祖靈殿瑞光苑（都城市・2011年）や昌竜寺（日之影町・2017年）などといった神社仏閣の内部を手がける機会も増えている。これは、又木の「宇宙からの光」をモチーフとする作品が、人々に魂や祈りを想起させていることを裏付けている。

又木のモチーフには光や宇宙・星・太陽といったものが多く、小さな粒子が大量に蠢くような形を成す。油彩画などの絵画においては点描にも近い纖細な表現でこれらを描写し、また立体造形や建築デザインにおいてはよりデフォルメされた描写のかけらたちが画面のなかを縦横無尽に飛び回る。



Plaza TAIYO 2006 (Cuenca)
太陽広場 2006 (クエンカ)

『太陽広場』

又木啓子（2006年・スペイン/クエンカ県）

「オーロラ」は又木がライフワークとして取り組み続けているシリーズで、現在も2枚ほど制作を続けている。本展においては2012年に制作された100号の作品を4枚展示した。表現に多様性をもつ又木が、あえて「キャンバスに油彩」という限られた表現を選択したこのシリーズは、彼女の制作の集大成と言えるだろう。赤・白・緑といった小さな粒子が群青の空間のなかで蠢き、膨らみ、流れるような動きをもって画面いっぱいに充満している。筆者はこの「オーロラ」シリーズに対し、最後の1枚と最初の1枚が連結するイメージ

を抱いている。特有の世界観がメビウスの輪のように繰り返し存在し続けるように見えるその作品からは、“輪廻転生”というキーワードも受け取れた。それは、近年同世代の親しい人々を相次いで亡くし、それをもって自らの死を身近に感じるようになったという又木ならではの空気感であろう。



奥の壁面)『オーロラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』又木啓子
(2012年・個人蔵)

手前右)『文字のない本』又木啓子
(2019年・個人蔵)

手前左)『宮崎風景』岡野耕三
(1962年・個人蔵)

筆者がこのシリーズは何枚で完成なのかと又木に尋ねたところ、彼女の返答は「無限大に」であった。その言葉に、いっそう完成時の展示空間への想像が膨らむ。作品が鑑賞者の四方を取り囲む、まさに最後の1枚と最初の1枚が連結する展示。“輪廻転生”というキーワードをより際立たせるならば、一般的な箱型の展示室ではなく円形の展示空間も良いかも知れない。「オーロラ」と総称されるその“現象”を、はじまりから終わり、そしてまたはじまりへと巡り鑑賞できるならば、観る人にとってそれは鑑賞という言葉には留まらない「体験」になるだろう。

3. 岡野耕三と又木啓子

岡野作品は一般的に「静謐な抽象画」と言われるが、一方で彼が一貫して追求しつづけた“情熱”が確かにその根底に流れている。鑑賞者はその狭間で揺れ、時に無重力空間に投げ込まれたかのような圧倒的な解放感を味わうことが出来るだろう。又木作品は「太陽のようにエネルギーに満ちた作品」と言われるが、一方で死生観のような“秘められたもの”が奥底に潜む。鑑賞者は、薄暗さのなかにあるほのかな光や希望を味わうことになるだろう。このように、“両者ともに第一印象とはまったく異なる奥行き”を、その世界に持ち合わせている。

さて、この“第一印象とはまったく異なる奥行き”をもつ岡野と又木であるが、両者が接点を持ったことによって互いにもたらした影響について記述したい。

岡野は又木の存在によって自身の表現の幅を広げた。又木は、取り巻く環境に呼応するようにオリジナリティの芽を育む力や、多様な画材や技法に意欲的に取り組む姿勢を持っている。制作を長年続けるほど新しい画材や技法との出会いに億劫になる作家が多い中、又木の取り組みは特徴的である。新たな画材や技法への取り組みは、作家にとって自身のイメージに近い表現を見つけるという重要な転換の機となるのは言うまでもない。このような又木の姿勢は、特に岡野の晩年の作品群の表現方法に影響を与えていた。

一方又木は、岡野の作家たるストイックな姿勢に影響を受けた。岡野は、一貫してひとりの作家として新たな表現を生涯追究し続けた。2年ものあいだ、自身の作品と向き合

い続け、対話したこともある。このような岡野の姿勢は、又木の作品との向き合い方に影響を与えた。

作家が他者の影響を受けるのは、決してメリットばかりではない。しかし、岡野と又木については、自分が持ち合わせていないものを互いに取り込み、作家としての強度を増すという、思ってもみなかつた相乗作用に繋がった。

4. 展示構成

本展の展示構成は、又木との密な打ち合わせによって決定した。ただし、同一会場で岡野、又木両名の作品を展示する初の試みであったため、実際にその空間で二人の作品がどのように共鳴するかは「展示してみてのお楽しみ」であった。

第1展示室をつきあたつた角の天井近くを中心に、ひときわ明るいライティングに包まれた巨大空間が出現する。キャンバス・シェイプドキャンバス・和紙・陶板・モビール。多様な表現と多彩な色が混在する空間のはずなのに、その空間は一塊の蠱きとなってまとまりをもつ。一気に感情の沸き立ちを搔き立てる空間となった。

第2展示室の中央には小さな展示台をシンクロするように配置した。展示台の一つには又木による『文字のない本』、もう一つには岡野による『宮崎風景』が展示された。岡野の初期の具象作品群（なかでも『十一面観音像』は意外性があり印象的である）を経て、『干しだこ』『赤のコンポジション』『もはやひとは抵抗することをやめ』『oleo sobre lienzo（絶筆）』の合間の壁面を、静と動を兼ね備えたコンポジションが埋め尽くす展開へと続く。なお、岡野・又木両名の作品が混じり合うこの展示室においては、鑑賞のしやすさに配慮し、又木作品の選定を岡野作品に多少寄り添うような形で行った。

第3展示室には岡野の成熟した表現と言えるコンポジションシリーズを中心に並んだ。中央には生涯における代表作である『もはやひとは抵抗することをやめ』を配置し、その壁面を囲むように、東京藝術大学卒業制作となる『赤によるコンポジション』、向かい合う壁面には、晩年の代表作『oleo sobre lienzo（絶筆）』が第3展示室の中心核となった。この展示室で、本展の静かなる熱気の高まりは最高潮となる。

第3展示室を抜けた回廊には、近年又木に高い評価を与えたタペストリー財団による、又木啓子オリジナルタペストリーの縮小版を展示した。実際のタペストリーの大きさは5m×2, 75mにも及ぶので、圧巻の迫力であることが想像できる（スペイン王立タペストリー財団所蔵）。

通常は展示スペースとして使用されるケースの少ないパブリックスペースにて展示した又木作品は、あたかもそこに根ざし生息しているかのようであった。ガラス越しに見える中庭は開館当時から存在し、高鍋の地理が瓦でデザインされている。又木はこのスペースに屋外対応型の作品（コンクリートやプラスチックを素材とした立体作品）を設置し、その瓦のデザインとの見事な融合を成し遂げた。「ちょっとした遊びよ」と茶目っ気たっぷりに言っていた又木の遊び心が充分に伝わってくる空間となった。通路上に設置した立体作品「TOGARIA星」は、足元に立つと反射して鏡に中庭の空が映り、展示室から出

てきた鑑賞者に対する進むべき方向へのアイキャッチ的な存在となった。

また、中庭の対面には城堀を眺めることのできる休憩室があり、両作家の過去資料、クエンカの自宅やアトリエの映像および、ガラス面にレリーフ状のアクリル画作品「オーロラ」を展示した。ガラスの向こうに広がる高鍋ののどかな風景と「オーロラ」がレイヤーのように重なり、風景が色めきたつ。そういえば会期中、朝方の休憩室にだけ起きる現象があった。朝日がガラス面に差し、作品を透過して、休憩室の床面に色の影が映り込んでいた。その様子に、又木作品が時間や太陽などの光の影響を取り込み、美しく反応するものであることを、改めて認識したものである。

最後に、本展の意義について触れたい。

岡野耕三については、近年、その画業のおおよそを捉えることが出来る機会として「残響岡野耕三回顧展」（岡山県立美術館・2013年）が開催されている。

一方の又木啓子は、「MESSAGE '97 南九州の現代作家たち」（都城市立美術館・1997年）において、10人の現代作家のなかに選出された実績を持つ。

本展は、それぞれの故郷で取り上げられてきた岡野耕三と又木啓子の存在を繋げ、両者を包括的、あるいは多角的に調査研究する一助となることを目的として開催した。

国境を越え愛されるふたりの作家の功績が今後一層認知され、評価されていくことを願い、本稿を閉じることとする。

参考文献

「岡野耕三 KOZO OKANO resonancias」2012年12月13日発行

発行：クエンカ県・岡野耕三回顧展実行委員会

「岡野耕三作品集」2000年8月31日発行

発行：「岡野耕三作品集」刊行会

編集：富士印刷出版事業部 印刷：富士印刷株式会社

「MESSAGE'97 南九州の現代作家たち」1997年2月21日発行

編集・発行 都城市立美術館 制作 株式会社ページファクトリー

「光の鼓動 又木啓子」2017年 発行：アグアルナ

「都城美術史」1988年

著者：古垣隆雄 編纂：宮崎日日新聞 発行者：都城市立美術館

印刷・製本：有限会社文昌堂

「昌竜寺（日之影）にふすま絵 33年越しの約束実現」

宮崎日日新聞 2017年5月9日

年譜

岡野耕三 Kozo Okano

1940年 岡山県倉敷市生まれ
1965年 東京芸術大学卒業 大橋賞受賞
1967年 東京芸術大学大学院 卒業直前にスペインに渡る
マドリード県・トレド県を経てクエンカ県へ移住する
2003年 クエンカ県にて他界

作品所蔵

岡山県立美術館（岡山県・岡山市）
倉敷市立美術館（岡山県・倉敷市）
スペイン抽象美術館（スペイン・クエンカ県）
ヴィジャファマス近代美術館（スペイン・カステリヨン県）
クエンカ県立美術館（スペイン・クエンカ県）
アントニオ・ペレス財団クエンカ現代美術館（スペイン・クエンカ県）
山陽学園短期大学（岡山県・岡山市）
岡山県立児島高等学校（岡山県・倉敷市）
倉敷市立味野中学校（岡山県・倉敷市）

又木 啓子 Keiko Mataki

1952年 宮崎県都城市生まれ
1976年 女子美術大学芸術学部洋画科卒業
スペインに渡る
1981年 スペイン王立サンフェルナンド美術アカデミー^(現・マドリードコンプルテンセ大学美術学部)
絵画・油絵科卒業
1982年 スペイン国立応用美術学校石版画科・銅版画科修了
スペイン国立陶芸学校 修了

その他の主な制作

1999年 北泉橋 (都城市)
2000年 絨毯デザイン 5m×2.75cm
(スペイン王立タペストリー財団・マドリード県)
宮崎県ふるさと切手デザイン (日本郵政省)
2001年 遊歩道 「光」デザイン・制作 (都城市)
2006年 “太陽広場 (プリンシペ公園内)” デザイン・制作
(スペイン・クエンカ県)
都城市民名誉賞・勲章デザイン (都城市)
2011年 神柱宮祖靈殿瑞光苑 ロビー空間作品 (都城市)
2016年 宮崎県立美術館企画
“TOGARIA 星広場” 皇子原公園内 (高原町)
2017年 襲絵 “光臨” 昌龍寺 (日之影町)

作品所蔵

スペイン王立タペストリー財団美術館 (スペイン・マドリード県)
クエンカ県立アントニオ・ペレス財団美術館 (スペイン・クエンカ県)
クエンカ州立美術館 (スペイン・クエンカ県)
切手の博物館 (東京都)
都城市立美術館 (都城市)
神柱宮祖靈殿瑞光苑 (都城市)
昌龍寺 (日之影町)

[写真提供]

岡山県立美術館 (cat.no.50,52)

倉敷市立美術館 (cat.no.51)

又木啓子 (cat.no.53)

高鍋町美術館 (cat.no.49,51,54)

VII 法令

1. 高鍋町美術館基金の設置、管理及び処分に関する条例

平成11年3月24日

条例第7号

(設置)

第1条 美術品の購入、特別展の開催及び美術館の健全な運営に資するため、地方自治法(昭和22年法律第67号)第241条第1項の規定に基づき、高鍋町美術館基金(以下「基金」という。)を設置する。

(積立て)

第2条 基金として積み立てる額は、寄附金及び一般会計歳入歳出予算で定める額とする。

(管理)

第3条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(運用益金の処理)

第4条 基金の運用から生ずる収益は、一般会計歳入歳出予算に計上して基金に編入するものとする。

(繰替運用)

第5条 町長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(処分)

第6条 基金は、第1条に規定する目的のためにこれを処分することができる。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、基金の管理に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この条例は、平成11年4月1日から施行する。

2. 高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例

平成 11 年 3 月 24 日

条例第 6 号

改正 平成 15 年 5 月 23 日条例第 17 号

平成 18 年 3 月 24 日条例第 5 号

平成 24 年 3 月 21 日条例第 1 号

平成 30 年 3 月 20 日条例第 14 号

平成 30 年 6 月 18 日条例第 26 号

令和元年 6 月 18 日条例第 17 号

令和 2 年 3 月 23 日条例第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、高鍋町美術館（以下「美術館」という。）の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 郷土の教育、学術及び文化向上に資するため美術館を設置する。

2 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
高鍋町美術館	高鍋町大字南高鍋 6916 番地 1

(事業)

第 3 条 美術館は、次の事業を行う。

(1) 美術品及び美術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に關すること。

(2) 美術品等に関する調査研究、展覧会及び講習会等の開催に關すること。

(3) 美術館の施設及び設備を町民の利用に供すること、その他美術活動の援助に關すること。

(4) その他町長が必要と認めること。

(管理)

第 4 条 美術館は、高鍋町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

(職員)

第 5 条 美術館に館長その他必要な職員を置く。

(美術館協議会)

第 6 条 美術館の積極的な活用及び適切かつ円滑な運営を図るため、高鍋町美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員の定数は、7 人以内とする。

3 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(観覧料等)

第7条 美術館で美術品等を観覧しようとする者は、別表第1に掲げる観覧料を納付しなければならない。

2 美術館の施設又は設備を使用しようとする者は、別表第2に掲げる使用料を納付しなければならない。

3 多目的ホール及び実習室は、正午から午後1時までの間、午後5時から午後6時までの間及び午後10時から午後11時までの間に限り、使用時間を延長することができる。

4 前項の規定により使用時間を延長した者は、別表第3に掲げる使用料を納付しなければならない。

5 町長は、特に必要があると認める場合は、観覧料及び使用料（次項において「観覧料等」という。）の全部又は一部を免除することができる。

6 既納の観覧料等は還付しない。ただし、館長は、規則で定めるところにより、その全部又は一部を還付することができる。

(損害賠償)

第8条 観覧者又は使用者は、美術品等、設備若しくは備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の代価をもって賠償しなければならない。

2 町長は、情状により前項の損害賠償額の全部又は一部を免除することができる。

(指定管理者による管理)

第9条 美術館の管理は、地方自治法第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって町長が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせることができる。

2 前項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合、当該指定管理者は必要があると認めるときは、あらかじめ町長の承認を得て、美術館の休館日を変更し、若しくは別に定め、又は開館時間を変更することができる。

3 第1項の規定により、美術館の管理を指定管理者に行わせる場合は、第4条の規定中「高鍋町教育委員会（以下「教育委員会」という。）」とあり、及び第7条の規定中「町長」とあるのは「指定管理者」と読み替えるものとする。

4 第1項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合において、当該指定管理者が美術館の管理を行うこととされた期間前にされた許可の申請は、当該指定管理者にされた許可の申請とみなす。

5 第1項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合において、当該指定管理者が美術館の管理を行うこととされた期間前に許可を受けている者は、当該指定管理者の使用の許可を受けたものとみなす。

(指定管理者の業務)

第10条 指定管理者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 第3条に規定する事業の実施に関する業務
- (2) 美術館の利用許可に関する業務
- (3) 美術館の維持管理に関する業務
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

(利用料金)

第11条 町長は、第9条第1項の規定により美術館の管理を指定管理者に行わせる場合は、別表に掲げる美術館の観覧料又は使用料（以下「利用料金」という。）を当該指定管理者に収入として收受させることができる。

- 2 使用者は、利用料金を指定管理者に納めなければならない。
- 3 前項の利用料金の額は、指定管理者が別表に掲げる金額の範囲内で定め、町長の承認を受けなければならない。その額を変更するときも、同様とする。
- 4 指定管理者は、町長が定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 5 指定管理者が既に收受した利用料金は、原則として還付することができない。
- 6 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に利用料金の還付が必要と認められる場合に限り、町長が定める基準に従い、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(委任)

第12条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成11年4月1日から施行する。ただし、第7条の規定は、平成11年11月3日から施行する。

附 則（平成15年6月23日条例第17号）

この条例は、平成15年7月1日から施行する。

附 則（平成18年3月24日条例第5号）

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月21日条例第1号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月20日条例第14号）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成30年6月18日条例第26号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（令和元年6月18日条例第17号）抄

(施行期日)

第1条 この条例は、令和元年10月1日から施行する。

附 則（令和2年3月23日条例第7号）

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表第1（第7条関係）

区分			観覧料
常設展	団体以外	小学生未満、町内に住所を有する小学生、中学生、高校生及び特別支援学校生並びに町内高等学校生	無料
		町外に住所を有する小学生、中学生、高校生（町内高等学校生を除く。）及び特別支援学校生、高齢者並びに障がい者及び障がい者の介助者	100円
		一般	210円
	団体	小学生未満、町内に住所を有する小学生、中学生、高校生及び特別支援学校生並びに町内高等学校生	無料
		町外に住所を有する小学生、中学生、高校生（町内高等学校生を除く。）及び特別支援学校生、高齢者並びに障がい者及び障がい者の介助者	80円
		一般	170円
特別展			町長が定める額

- 備考 1 この表において「団体」とは、20人以上の団体をいう。
- 2 この表において「高齢者」とは、満70歳以上の者をいう。
- 3 この表において「障がい者」とは、身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者をいう。
- 4 この表において「一般」とは、小学生未満、小学生、中学生、高校生、特別支援学校生、高齢者、障がい者及び障がい者の介助者以外の者をいう。
- 5 観覧料は、消費税法（昭和63年法律第108号）第29条に規定する消費税の税率を乗じて得た額（以下「消費税額」という。）及び消費税額に地方税法（昭和25年法律第226号）第72条の83に規定する地方消費税の税率を乗じて得た額を合算した額に相当する額（以下「消費税等相当額」という。）を含む。
- 6 1人の障がい者に対し2人以上の障がい者の介助者が同時に美術品等を観覧する場合においては、2人目以降の障がい者の介助者の観覧料の額は、障がい者の介助者の区分は適用せず、当該障がい者の介助者が該当する区分を適用する。

別表第2（第7条関係）

区分		使用時間等	使用料
入場料を徴収しない場合	スポットライト	回廊	1日 510円
	使用しない場合	一般展示室	1日 4,070円
		企画展示室1	1日 4,070円
		企画展示室2	1日 4,070円
		多目的ホール（展示のみ）	1日 8,150円

スポットライトを使用する場合	回廊	1日	1,020円
	一般展示室	1日	4,580円
	企画展示室1	1日	4,580円
	企画展示室2	1日	4,580円
	多目的ホール（展示のみ）	1日	9,170円
入場料を徴収しない場合	多目的ホール		午前9時から正午まで
			午後1時から午後5時まで
			午後6時から午後10時まで
入場料を徴収する場合	スポットライトを使用しない場合	回廊	1日
		一般展示室	1日
		企画展示室1	1日
		企画展示室2	1日
		多目的ホール（展示のみ）	12,220円
	スポットライトを使用する場合	回廊	1日
		一般展示室	1日
		企画展示室1	1日
		企画展示室2	1日
		多目的ホール（展示のみ）	13,240円
入場料を徴収する場合	多目的ホール		午前9時から正午まで
			午後1時から午後5時まで
			午後6時から午後10時まで
実習室		午前9時から正午まで	510円
		午後1時から午後5時まで	710円
冷房（多目的ホールのみ）		午前9時から正午まで	1,530円
		午後1時から午後5時まで	2,040円
		午後6時から午後10時まで	2,040円
暖房（多目的ホールのみ）		午前9時から正午まで	1,020円
		午後1時から午後5時まで	1,530円
		午後6時から午後10時まで	1,530円
ピアノ		1日	1,020円
持込電気器具用電気（多目的ホールのみ）		電気器具に表示された電力1キロワット当たり1日	200円

備考 1 この表において「1日」とは、規則で定める美術館の開館時間をいい、使用した時間が1日に満たなかったときは、1日使用したものとみなす。

2 使用料は、消費税等相当額を含む。

- 3 使用時間は、準備及び後片付けに要する時間を含む。
- 4 持込電気器具用電気の使用料を算定する場合、電気器具に表示された電力に1キロワットに満たない端数があったときは、その端数は1キロワットとみなす。

別表第3（第7条関係）

区分		使用料
多目的ホール	入場料を徴収しない場合	正午から午後1時まで 810円
		午後5時から午後6時まで 1,020円
		午後10時から午後11時まで 1,020円
多目的ホール	入場料を徴収する場合	正午から午後1時まで 1,220円
		午後5時から午後6時まで 1,530円
		午後10時から午後11時まで 1,530円
実習室	正午から午後1時まで	100円
	午後5時から午後6時まで	140円
冷房（多目的ホールのみ）	正午から午後1時まで	310円
	午後5時から午後6時まで	410円
	午後10時から午後11時まで	410円
暖房（多目的ホールのみ）	正午から午後1時まで	200円
	午後5時から午後6時まで	310円
	午後10時から午後11時まで	310円

- 備考 1 使用料は、消費税等相当額を含む。
- 2 使用時間は、後片付けに要する時間を含む。

3. 高鍋町美術館管理運営規則

平成11年3月24日
教育委員会規則第1号

改正 平成17年8月10日教委規則第3号
平成21年2月5日教委規則第2号
令和元年6月18日教委規則第3号
令和2年3月3日教委規則第4号
令和3年2月22日教委規則第4号

（趣旨）

第1条 この規則は、高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例（平成11年高鍋町条例第6号。以下「条例」という。）第9条の規定に基づき、高鍋町美術館（以下「美術館」という。）の管理運営について必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 美術館の事務を行うため、美術館に総務学芸係を置く。

(分掌事務)

第3条 総務学芸係の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 文書に関すること。
- (2) 予算整理に関すること。
- (3) 美術館の施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関すること。
- (4) 施設等の使用許可に関すること。
- (5) 美術館協議会に関すること。
- (6) 美術品その他美術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 美術品等に関する専門的な調査研究に関すること。
- (8) 美術に関する展覧会、講演会及び講習会等の開催並びにその奨励に関すること。
- (9) 美術に関する案内書、解説書及び目録等の刊行並びに広報に関すること。
- (10) 他の美術館等との連携、情報の交換及び美術品等の相互貸借に関すること。
- (11) その他美術館に関すること。

(職員)

第4条 美術館に次の表に掲げる職員を置き、必要に応じ教育委員会が任命する。

職	職務
館長	館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副館長	館長を補佐し、館長に事故があるとき、又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
係長	上司の命を受けて係の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて専門的業務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて複雑な業務に従事する。
主事	上司の命を受けて事務に従事する。

(事務処理等)

第5条 美術館における事務処理、職員の服務等については、教育委員会における取扱いの例による。

(美術館協議会)

第6条 高鍋町美術館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長各1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、協議会委員（以下「委員」という。）の互選により選任し、その任期は、委員の任期とする。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を掌理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

- 2 会議の議長は、会長が当たる。
- 3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の議決を得て会長が定める。

(専門部会)

第8条 協議会に専門的事項について調査、研究するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に属する委員は、会長が指名する。
- 3 専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員のうちから互選する。
- 4 部会長は、部務を掌理し、専門部会の調査、研究の経過及び結果を会議に報告する。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、美術館総務学芸係において処理する。

(開館時間等)

第10条 美術館の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。ただし、多目的ホール（展示を除く。）の開館時間は、午前9時から午後10時までとする。

- 2 館長は、運営上必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、教育委員会の承認を得て開館時間を変更することができる。
- 3 展示室の入室時間は、午前10時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第11条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎週月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。）
 - (2) 休日の翌日（土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。）
 - (3) 12月28日から翌年1月4日まで
- 2 館長は、必要があると認めるときは、臨時に前項各号に掲げる休館日に開館し、又は開館日に休館することができる。

(入館制限等)

第12条 館長は、美術館の管理運営上支障があるとき、又は入館しようとする者が次に掲げる行為をするおそれがあると認められるときは、入館を制限し、又は拒否することができる。

- (1) 美術館における秩序又は風紀を乱す行為
 - (2) めいてい等により公衆に迷惑をかける行為
- 2 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。
 - (1) 前項第1号及び第2号に掲げる行為をしないこと。
 - (2) 施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められる行為をしないこと。
 - (3) 許可なく展示品に触れたり、写真撮影、模写等をしないこと。

- (4) 指定する場所以外において喫煙をしないこと。
- (5) 危険物、毒物及び動物等の携行持込みをしないこと。
- (6) 美術館の管理運営に不適当と認められる行為をしないこと。
- (7) 館内を不潔にしないこと。
- (8) 所定の場所以外に出入りしないこと。
- (9) 美術館の内外において許可なく物品を販売し、又は展示しないこと。
- (10) その他関係条例、規則及び美術館の係員の指示に従うこと。

3 館長は、入館者が前項の規定に違反したときは、退場を命ずることができる。

(使用許可)

第13条 美術館の施設等を使用しようとする者は、使用開始日の10日前までに施設等使用許可申請書（様式第1号）を館長に提出して、使用許可を受けなければならない。ただし、館長が必要と認めるときは、提出期限を変更することができる。

2 館長は、施設等の使用を許可したときは、施設等使用許可書（様式第2号）を交付するものとする。

3 館長は、美術館の管理運営上支障があるとき、又は使用許可を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、使用を許可しないものとする。

- (1) 施設等使用許可申請書の内容に偽りがあるとき。
- (2) 営利を主たる目的とするとき。
- (3) 美術館における秩序又は風紀を乱すおそれがあると認められるとき。
- (4) 施設、設備及び備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (5) 集団的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれのある組織の利益になると認められるとき。

4 館長は、必要があるときは、使用許可に条件を付けることができる。

(変更の許可)

第14条 使用許可を受けた者は、使用許可の内容を変更（使用施設の変更を除く。）しようとするときは、施設等使用内容変更許可申請書（様式第3号）を館長に提出して、使用内容変更許可を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により変更の許可をしたときは、施設等使用内容変更許可書（様式第4号）を交付するものとする。

3 前条第3項及び第4項の規定は、第1項の規定による使用内容変更許可について準用する。

(使用者の遵守事項)

第15条 使用者は、第12条第2項各号に定めるもののほか、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 許可された使用の目的又は条件に違反しないこと。
- (2) 施設等を使用する権利を他に譲渡し、又は転貸しないこと。

(使用後の検査)

第16条 使用者は、使用を終了したときは、自己の負担において直ちに施設等を原状に回復しなければならない。

2 前項の規定により施設等を原状に回復した者は、直ちに館長に報告して館長の指示による検査を受けなければならない。

(使用許可の取消し等)

第17条 館長は、使用者が第13条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき、又は第15条の規定に違反すると認めたときは、使用許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

2 前条の規定は、前項の規定による使用許可の取消し又は使用中止の場合に準用する。

3 第1項の規定による使用許可の取消し又は使用中止によって使用者に損害が生じても、町は、その損害の賠償の責めを負わないものとする。

(使用許可の取消しの申出)

第18条 使用者は、使用許可の取消しの申出をするときは、施設等使用許可取消申出書

(様式第5号)を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の施設等使用許可取消申出書の提出があったときは、当該許可を取り消し、その旨を申出者に通知するものとする。

(使用料)

第19条 施設使用料は、使用開始日の10日前までに納入しなければならない。ただし、設備使用料については、使用後に納入することができる。

(観覧料等の減免)

第20条 条例第7条第5項の規定により、観覧料及び使用料(以下これらを「観覧料等」という。)の全部又は一部を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1) 観覧料が全部免除になる場合

教育課程に基づく学習活動として入館する町内の小中学校に通う児童若しくは生徒又は町内の高等学校に通う生徒及びその引率者が観覧するとき。

(2) 使用料が全部免除になる場合

ア 町又は教育委員会が主催する行事を行うために施設等を使用するとき。

イ 教育委員会の所管に属する学校がその行事として施設等を使用するとき。

(3) 教育委員会が相当と認める額が全部又は一部免除になる場合

教育委員会が特に必要と認めるとき。

2 前項の観覧料等の免除を受けようとする者は、高鍋町美術館観覧料等免除申請書(様式第6号)を館長に提出しなければならない。

3 館長は、観覧料等の免除を許可したときは、高鍋町美術館観覧料等免除許可書(様式第7号)を交付するものとする。

(使用料の還付)

第21条 条例第7条第7項の規定により還付することができる場合は、次の表のとおりとする。

区分	還付額
1 使用者の責めに帰すことのできない理由により使用できない場合	既納使用料の全額
2 美術館の都合により使用許可を取り消した場合、又は美術館に入館できない場合	
3 使用前に使用許可の取消しがあり、その申出に基づいて館長が使用許可を取り消した場合	
4 一般展示室、企画展示室、実習室、多目的ホール使用開始日の7日前の日までに使用許可の取消しの申出があったとき。	既納使用料の8割

2 使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（様式第8号）を館長に提出しなければならない。

（美術品等の館内利用）

第22条 図書資料は、館内の所定の場所において利用することができる。ただし、館長が移動できないと認めた資料については、その限りでない。

2 美術品等（図書資料を除く。）を学術の研究のため特に利用しようとする者は、美術品等特別観覧承認申請書（様式第9号）を館長に提出して、館長の承認を得なければならない。

（図書資料の複写）

第23条 図書資料の複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）第31条の規定に基づき、調査研究の用に供するために公表された著作物の一部分について行うものとする。

2 図書資料の複写を依頼しようとする者は、図書資料複写申込書（様式第10号）を館長に提出しなければならない。

3 次に掲げる図書資料は、複写しないものとする。

（1）技術的に複写が困難な図書資料

（2）複写することによって損傷のおそれのある図書資料

（3）前2号に定めるもののほか、館長が複写することを不適当と認めた図書資料

4 複写物の利用による著作権法上の責めは、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

（美術品等の館外利用）

第24条 美術品等の館外貸出しを受けようとする者は、美術品等館外貸出許可申請書（様式第11号）を館長に提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、前項の規定により館外貸出しを許可したときは、美術品等館外貸出許可書（様式第12号）を交付するものとする。

3 前項の館外貸出しを受けることのできる者は、次のとおりとする。

- (1) 公立の美術館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) その他館長が適當と認める者
- 4 第1項の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めたときは、これを延長することができる。
- 5 館長は、美術館の都合により必要と認めたときは、前項に規定する館外貸出しの期間であっても、美術品等の返還を求めることができる。

(美術品等の寄贈及び寄託)

- 第25条 美術品等を寄贈又は寄託しようとする者は、美術品等寄贈寄託申出書（様式第13号）を館長に提出しなければならない。
- 2 館長は、前項の寄贈又は寄託の引受けを決定したときは、寄贈者又は寄託者に美術品等寄贈寄託受領書（様式第14号）を交付するものとする。
- 3 寄託を受けた美術品等は、美術館所蔵の美術品等と同様の取扱いをするものとする。ただし、天災その他不可抗力によって生ずる損害については、賠償の責めを負わないものとする。
- 4 寄託を受けた美術品等は、寄託者の申請又は美術館の都合により返却することができる。

(美術品の選定及び評価)

- 第26条 美術品の選定及び評価をするに当たっては、原則として高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会の意見を聴取するものとする。
- 2 高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会の組織及び運営については、館長が別に定める。

(販売行為等の禁止)

- 第27条 美術館の建物及び敷地内において、許可なく売店を設置し、又は販売をしてはならない。

(委任)

- 第28条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。ただし、第10条から第28条までの規定は、平成11年11月3日から施行する。

附 則（平成17年8月10日教委規則第3号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成21年2月5日教委規則第2号）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（令和元年6月18日教委規則第3号）

この規則は、令和元年10月1日から施行する。

附 則 (令和2年3月3日教委規則第4号)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年2月22日教委規則第4号)

この規則は、令和3年3月1日から施行する。

4. 高鍋町美術館協議会規則

平成11年3月24日

教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、高鍋町美術館の設置及び管理に関する条例(平成11年高鍋町条例第6号)

第6条の規定に基づき、高鍋町美術館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、協議会委員(以下「委員」という。)の互選とし、その任期は、委員の任期とする。

3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第3条 協議会の会議(以下「会議」という。)の議長は、会長がこれに当たる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、会長の決するところによる。

(専門部会)

第4条 協議会に、専門的事項について調査、研究するために専門部会を置くことができる。

2 専門部会に属する委員は、会長が指名する。

3 専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員のうちから互選する。

4 部会長は、部務を掌理し、専門部会の調査、研究の経過及び結果を会議に報告する。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、高鍋町美術館において処理する。

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮つて定める。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

5. 高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会運営要綱

平成11年3月24日
教育委員会訓令第1号

(趣旨)

第1条 この要綱は、高鍋町美術館管理運営規則(平成11年高鍋町教育委員会規則第1号)第26条の規定に基づき、高鍋町美術館美術作品等収集審査委員会(以下「収集委員会」という。)の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 収集委員会は、教育委員会の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項について調査及び審議を行う。

- (1) 美術資料の学問的価値に関すること。
- (2) 美術資料の評価額に関すること。
- (3) 美術資料の収集計画に関すること。

(組織)

第3条 収集委員会は、委員7名以内で組織する。

2 委員は、美術に関する学識経験者のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 収集委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
3 委員長は、会務を総理し、収集委員会を代表する。
4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指定する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 収集委員会は、教育長が招集する。

2 収集委員会の開催は、半数以上の委員の出席を必要とする。
3 教育長への報告は、原則として出席委員の全員一致の意見により行う。ただし、意見の一致が得られない場合は、各委員の意見を併記して報告する。

(臨時委員)

第7条 教育長は、美術資料の審議に関し特別に必要があると認めるときは、当該資料に関し専門的知識を有する者の出席を教育委員会に要請することができる。

2 教育委員会は、前項の要請があったときは臨時委員を委嘱し、当該資料に関する専門的調査を委託するものとする。
3 臨時委員の任期は、当該資料に関する収集委員会の報告が行われた日までとする。

(庶務)

第8条 収集委員会の庶務は、美術館において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、収集委員会の運営に関する必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、公表の日から施行する。

VIII 名簿

1. 美術館協議会（令和元年度）

会長 田中 等 宮崎彫刻グループ
副会長 巢山 和枝 高鍋商工会議所
委員 加藤 秀文 高鍋町観光協会事務局長
委員 財津 吉和 高鍋町自治公民館連絡協議会会長
委員 外山 宏幸 高鍋東中学校校長
委員 永田 蝶 高鍋町文化協会会員
委員 吉田 良美 高鍋町美術協会会員

2. 職員（令和元年度）

館長 島埜内 遵

副館長 内田 美香

<総務学芸係>

係長 内田 美香

主事 三笠 俊史

学芸嘱託 青井 美保

事務嘱託 永友 裕子

令和3年3月印刷

令和3年3月発行

発行者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋6916番地1

TEL (0983) 23-8887

印刷者 高鍋町美術館

宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋6916番地1

TEL (0983) 23-8887
